支那事變解決の根本策

特 217
182
× 複写

東亞聯盟協會編

始

特217
182

東亞聯盟協會編

支那事變解決の根本策

發行　東亞聯盟協會

今上天皇御製

西ひかしむつみかはして榮ゆかむ
世をこそいのれとしのはしめに

宣　言

人類歴史ノ最大關節タル世界最終戰爭ハ數十年後ニ近迫シ來レリ　昭和維新トハ東亞諸民族ノ全能力ヲ綜合運用シテコノ決勝戰ニ必勝ヲ期スルコトニ外ナラス

卽チ昭和維新ノ方針次ノ如シ

一　歐米帝國主義ノ壓迫ヲ排除シ得ル範圍内ニ於ケル諸國家ヲ以テ東亞聯盟ヲ結成ス

二　聯盟内ニ於ケル積極且ツ革新的建設ニヨリ實力ヲ飛躍的ニ增進シ以テ決勝戰ニ於ケル必勝ノ態勢ヲ整フ

三　右建設途上ニ於テ王道ニ基キ新時代ノ指導原理ヲ確立ス

皇紀二千六百年二月十一日

東亞聯盟協會

目次

近衛聲明……（三）
東亞聯盟論と近衛聲明……東亞聯盟協會編：（九）
東亞聯盟論に寄せて……板垣征四郎：（二一）
滿洲建國と支那事變……石原莞爾：（三三）
派遣軍將兵に告ぐ……支那派遣軍總司令部：（九三）

近衞聲明

―昭和十三年十二月二十二日首相談―

政府は本年再度の聲明に於て明らかにしたる如く、終始一貫、抗日國民政府の徹底的武力掃蕩を期すると共に、支那における同憂具眼の士と相携へて東亞新秩序の建設に向つて邁進せんとするものである。今や支那各地に於ては更生の勢ひ澎湃として起り、建設の氣運愈々高まれるを感得せしむるものがある。是に於て政府は、更生新支那との關係を調整すべき根本方針を中外に闡明し、以て帝國の眞意徹底を期するものである。

日滿支三國は東亞新秩序の建設を共同の目的として結合し、相互に善鄰友好・共同防共・經濟提携の實を擧げんとするものである。これが爲めには支那は先づ何よりも舊來の偏狹なる觀念を清算して抗日の愚と滿洲國に對する拘泥の情とを一擲することが必要である。卽ち日本は、支那が進んで滿洲國と完全なる國交を修めんことを率直に要望するものである。

次に東亞の天地にはコミンテルン勢力の存在を許すべからざるが故に、日本は日獨

伊防共協定の精神に則り、日支防共協定の締結を以て日支國交調整上喫緊の要件とするものである。而して支那に現存する實情に鑑み、この防共の目的に對する十分なる保障を擧ぐるためには、同協定繼續期間中、特定地點に日本軍の防共駐屯を認むることと及び内蒙地方を特殊防共地域とすべきことを要求するものである。

日支經濟關係に就いては、日本は何等支那に於て經濟的獨占を行はんとするものに非ず、又新しき東亞を理解しこれに卽應して行動せんとする善意の第三國の利益を制限するが如きことを支那に求むるものにも非ず、唯飽く迄日支の提携と合作とをして實效あらしめんことを期するものである。卽ち日支平等の原則に立つて、支那は帝國臣民に支那内地に於ける居住營業の自由を容認して日支兩國民の經濟的利益を促進し、且つ日支間の歷史的經濟的關係に鑑み、特に北支及び内蒙地域に於てはその資源の開發利用上、日本に對し積極的に便宜を與ふることを要求するものである。

日本の支那に求むるものの大綱は以上の如きものである。日本が敢へて大軍を動かせる眞意に徹するならば、日本の支那に求むるものが區々たる領土に非ず、又戰費の賠償に非ざることは自ら明らかである。日本は實に支那が新秩序建設の分擔者としての職能を實行するに必要なる最少限度の保障を要求せんとするものである。日本は支那の主權を尊重するは固より、進んで支那の獨立完成のために必要とする治外法權を撤廢し且つ租界の返還に對し積極的なる考慮を拂ふに吝ならざるものである。

東亞聯盟論と近衞聲明

—東亞聯盟協會—

一

昭和十三年十二月二十二日、近衞內閣は總理大臣談の形式をもつて支那事變處理の原則に關する日本政府の見解を中外に聲明した。今日、事變勃發以來滿二ヶ年餘を經過し、近く新支那中央政權の成立が傳へられ、いよいよ事變解決の重要段階に來たのではないかと考へられるのであるが、事變處理の根本目標は必ずしも國民の間に明確でなく、東亞の將來に關し一致せる國民的思潮を見出し難い。日本は支那に對し思想を持たぬとは何度も繰返された言葉である。朱德・毛澤東は十年一日の如くソ聯の主張を代辯し來つてゐるのに對し、所謂親日知日派と云はれる支那要人の遷り變りの目眩しさはまことに驚くべきことであるが、その根本原因の一は結局日本が支那・東亞に關する一貫せる思想を有せず、對支方針は各機關各當事者の一時的判斷によつて決定されること多く、その方針は常に動搖し、支那をして日本の眞意を判定し難くさせたことにあると云はねばならぬ。今次事變はこの點に就き多大の教訓を與へたのであ

るが、永年に亙る不統一は一朝にして清算されず、最近歐洲に戰亂勃發し、或は長期戰爭となるかも知れぬ情勢現出するや、一部では天佑などと稱し、甚だしきはこれを好機として一擧に强權的解決を試みんと論ずる者があるけれど、このやうな考へ方は自ら東亞處理に關する不動の世界觀を持たぬ者が、徒に他人の力、その向背に依賴せんとする心理を物語るものである。我等の生くる所は東亞である。國際情勢の利と不利とに拘らず、吾人は眞に東亞を一體に結ぶ道を明かにし、その大道を勇敢に直進しなければならないのである。

二

東亞聯盟の結成は滿洲建國以來一貫せる吾人の主張である。周知の如く滿洲國は民族協和をもつて建國の國是と定めたのであるけれども、民族協和の觀念のみに依つては滿洲國に於ける漢民族の心からなる共鳴を獲得出來なかつたのである。よく支那人は國家觀念がないと云はれるけれど、滿洲國にある漢人は民族協和・王道樂土のスローガンのみでは滿足出來ず、その母國たる支那に對する日本の態度を知らんことを欲した。かくて昭和八年三月滿洲帝國協和會は、民族協和の運動を全東亞に擴め、東亞聯盟を結成すべき旨の聲明を發するに至つたのである。而して東亞聯盟結成の條件として、思想の一元・國防の共同・經濟の一體化・政治の獨立が擧げられ、玆に初めて滿洲建國の東亞建設の一翼たるの意義が闡明され、在滿の漢人はその祖國に對する良心の苦痛なく、一〇〇パーセントの共鳴をなし得ることゝなつたのである。當時現地にあつたものは、東亞聯盟思想が彼等に如何に深き影響を及ぼしたかを痛切に感じたのであつた。就中、聯盟各國の政治の獨立なる一項は實に東亞聯盟論の魅力の中心であつたと云へる。然しながらかかる東亞聯盟思想は從來の對支觀念を根柢より覆すものであるだけに、日支兩國共にその徹底を缺き、且つこれと同時に現實問題としては北支に於ける排日運動のため日本武力が連續的に發動され、政治の獨立を標榜する東亞聯盟論はともすれば退潮の傾向にあり、一度は前述の如き明瞭な宣言を發したのに

も拘らず、混沌たる情勢の裡に遂に今次事變を迎ふる景況に至つたのである。支那事變勃發當初、國民は大いに暴支膺懲を叫んだのであるが、その後事變の進展と共に輿論は漸次建設的となり、今や東亞大同建設こそ今次事變の至大なる犧牲を忍び得る唯一の道なることを了解しつつある。本文劈頭に一言せる十二月二十二日聲明が大多數國民の共感を呼起した事實の掩ひがたきものがあるのも、またこの現はれと云はなければならないのである。世上ともすれば十一月三日の東亞新秩序の聲明を視て、十二月二十二日の聲明を輕視する傾きがあるが後者こそ政府の見解を最も具體的に表明せるものであつて、この內容を解剖敷衍し我が國策の根本を究明することは極めて意義深きことと確信する。

三

本聲明の最も注目すべき第一點は、日本は支那に對し領土をも賠償をも要求するものに非ず、支那の主權を尊重し、その獨立完成のために進んで租界を返還し、且つ支那に於ける治外法權を撤廢すべきことを表明すると共に、支那による滿洲國の承認を要望し、日滿支の政治的獨立の原則を明瞭にしたことである。

歐洲大戰以後、國家聯合の傾向は年と共に顯著である。これは各國の利害に基く合縱連衡の策たる外、もはや一國家をもつて活動最大單位とするを許さざる人類文化發展の勢によるものである。かかる趨勢の下にあつては、多くの國家多くの民族の團結を成就し得るものこそ、次の世界の王者である。東亞諸國を連ねて、眞に道義的基礎に立脚する新組織の建設は、實にまたこの史的必然の見地より理解せらるべきである。ただ吾人の庶幾する東亞聯盟に於ては、聯盟內の一國による强權的支配を許さず、締盟各國はそれぞれ政治の獨立を堅持するのである。

滿洲國が支那のものに非ず、日本のものに非ず、民族協和の獨立國として存在する事實に就いては、支那は冷靜に理解すべきである。同時に日本は、滿洲國に於ては民族協和の立場より進んで同國の政治に參加して可なるも、支那は支那人の支那にして

兩國の間にこの重大なる差異のあることを沒却してはならないのである。

第二の注目すべき點は、防共協定の締結並びに防共駐屯の要求である。防共協定は吾人の理解する所によれば、反王道主義・反東亞聯盟思想を防ぐための思想協定の意味である。卽ち當時の政治情勢によつて防共と冠したのであるが、その內容はかゝる限定されたものではなく、一切の反王道の思想に對して、我等の東亞聯盟思想を擁護せんとする協定である。

防共駐屯の要求も亦かかる見地より解釋すべきである。今日我が國に於ては駐兵の必要を主張するものと然らざるものとがある。防共駐屯の要求はこの微妙なる問題に對し、兩者を共に滿足せしめんとする巧妙なる表現と云はなければならぬ。卽ち駐屯を以つて駐兵主張論者を滿足させると共に、同時に特に防共の語を附加し、從來の如く軍を駐屯させてその威力により政治・經濟的に優位を占めんとした權益駐屯と異なる意を明かにして、駐兵反對論者をも首肯させようとしたものである。

駐兵につき吾人の見解を率直に表明するならば、駐兵は日支双方の理解に基き、外敵に對して、東亞地域防衛の見地より共同國防の目的を以てのみ行はるべきであつて、この目的を逸脫する駐兵は認め得ぬものである。かかる觀點に立つならば、近衛聲明に所謂防共駐屯は權益駐屯に非ざること固よりであるが、また日支双方の協議に基く純然たる國防上の要求に卽する駐兵とも考へ得ざる、云はゞ思想駐兵とも呼ぶべき暫定的駐兵たるの內容を有するものと考へねばならぬ。卽ち前述の如く、凡そ王道主義に反對する一切の思想に對し、東亞大同の理想を確立させるまで臨時に若干の地點に兵力を駐屯させるとの意味に解しなければならぬ。從つてこの駐兵は日支双方の理解の度と對應して一日も早く撤退せらるべき性質のものである。昭和十四年七月七日事變二周年記念日に於て、平沼首相は新聞記者團に對し駐兵は半永久的であらうと語つてゐるのであるが、若しこの新聞記事の傳へる所が眞實であるならば、駐兵に關して平沼首相の理解する所は吾人のそれと甚だしき差異ありと云ふべく、また恐らくは近

衛聲明の精神を解するに於て徹底せざる所あるものと信ずる。

かくの如く所謂防共協定締結・防共駐屯の要求は、日支双方に東亞聯盟精神を普及徹底させるまでの過渡的狀態に基くものであつて、東亞聯盟結成の原則たる思想の一元が實現されると共に、これらの要求は當然に解消されるものである。今次事變解決に際し一擧に撤兵することが至難なる現狀にある以上、その後に於ける一部駐兵はその目的に於てかくの如く極めて明確に定められると共に、一日も早くこの目的を達成して撤兵すべく、同時にまたこの駐屯實施に際してはこの目的に相應しき駐屯形式が採用されねばならぬ。

聲明の第三點は內蒙特殊防共地域設定の要求である。內蒙は云ふまでもなく直接ソ聯武力に對抗する軍事上の要衝である。近く假に日支の間に和平が成立するとしても、眞に支那が東亞聯盟の一員たるためには日支双方に聯盟思想を徹底させることの外、英米ソの合力に對して東亞を完全に防衛し得る實力の獲得が絕對に必要であるから、差當つて特に重要地點たる內蒙に特殊防共地域の設定を權利的に主張したのであるが、聯盟成立の曉は國防の共同なる原則によつて、日本は東亞聯盟防衛の義務に基き必要の如何なる地點にも前進して、共同防衛の實をあげることになるのである。

第四點は北支內蒙資源の開發である。これも東亞聯盟成立に至るまでの臨時的條件であつて眞に日支大同の理念に立つて東亞聯盟が結成されたならば、經濟の一體化の原則に從ひ、苟も聯盟の經濟力强化のためには內蒙北支と限らず、チベットでも雲南でも開發してゆくわけである。

四

吾人の近衛聲明に對する解釋は以上の如きものである。卽ち近衛聲明は東亞聯盟の結成を目標としつつ、その結成に至るまで臨時に條件を提出したものと理解する。提出された各要求は吾人の主張する東亞聯盟結成の條件と夫々寸分の隙なく相照應するのであつて巧妙を極めた表現の中に東亞大同の道を明確に指示するこの近衛聲明の公

正妥當なる內容は、實に我が對支政策思想史上劃期的のものであると確信する。これと共に滿洲事變以來、年久しく主張し來れる東亞聯盟論が、今や漸く眼前の事實として日本最高國策に採用されて來たことに對しては吾人は無限の感激を禁じ得ないのである。今なほ依然として西歐模倣の帝國主義觀念を脫し得ざる多くの議論を見、依然として强權指導を主張する多くの意見を聽くのであるが、これと共に王道に立脚する東亞大同の必要を叫ぶ聲もまた日と共に旺んである。道はなほ遠き如くして案外に近いかも知れぬ。願はくは現實の上に一日も早く東亞大同の理想を實現し、幾萬將兵の英靈を眞に慰めたいものである。（以上）

東亞聯盟論に寄せて

板垣征四郎

―東亞聯盟第二卷第一號所載―

一

もう四十年も昔の話だが、自分等が幼年學校・士官學校時代のことである。我等は當時の日本の國士、志士の歩み方と同じやうに、漢民族の革命を支持して何とかしてこれを成功させてやりたい、日本の明治維新にあやからしてやりたい、と考へて居つたのである。

明治四十三年に武漢革命が成功すると自分等は我々の成功として是をよろこび、その以後と雖も、或る者は軍人の職を抛ち、或る者は命を捨てゝそれに參加した。

が、その結果はどうであつたかと云へば、勿論今から考へて見て性急であり、あの長い傳統を持つ漢民族の革命がさう短時期に成功する筈はなく、武漢革命以來、革命の發展は却つてあまりにも我々の希望とは離れて行つて了つた。

而して結局日本の多くの人々は、大體、漢民族は文化が非常に高い。また高い文明を持つては居るが、近代的國家を建設することは不可能ではないかと云ふ氣持になつ

て行つたのである。

一方、日本の方を考へて見ると、日露戰爭前後、漸くヨーロッパ各國の不平等條約を完全に破棄して、急速に資本主義の發展を來たし、而してそれが市場を求めるために、結局、後進國日本は支那に對して帝國主義的政策をとるハメになつた。而も力の弱かつた日本としては先進國歐米に腰をひくゝして行かねばならぬ關係上、友邦である中華民國に對して今日から見れば皇國日本として恥かしい點もあつた、といふことは否定出來ない。

かやうな關係で、言ひ換へれば漢民族に對してほんとうに好意を持つた面と帝國主義的な面とが混淆して、日本の對支政策は以來、大混亂に陷つたのである。

天皇の國である日本として、まことに恥かしい景況ではあつたが、漢民族も斯う云ふ狀況になつてきたわけをよく理解する必要がある。かの二十一ヶ條の要求や、乃至は所謂田中大將の上奏文などは、斯う云ふ雰圍氣の裡につくり出されたのだ。

而して日本がかう云ふ狀態にあるのに對して、中華民國は歐米依存を强くし、日本に對して輕侮の念を强め、兩々相俟つて日支關係は極端に惡化して行つたのである。

二

滿洲事變が起きる前の日本の狀態は思想的には自由主義の支配下にあつたやうだが、東亞の現實問題に關心を持つて居る多くの國民は、前述の段々惡化して行く景況に對して、何とかして日本の政治的勢力を以て對支問題を打開しようといふ氣持になつて居つた。ヨーロッパ大戰以後、日本の實力の飛躍的發展といふものは、漸く日本の先覺者とも云はるべき人々、云ひ換へれば先に述べた國士とか志士とかの人達の傳統を新しい氣持で發展せしめ、かくて同じく支那に政治的に發展して行かうといふのではあるが、併し歐米流の帝國主義ではなくまた單に日本の利益のためだけではなく、武漢革命以後の混沌で救ふことが出來ぬやうに見えてゐる四億の漢民族を救ふ爲めには、日本が實力をもつて西洋勢力を擊破して、中國を支配して善政を布くことが

一番いゝ道德であると信じた。まづその第一歩として滿洲の占領、滿洲を占領してほんとうに三千萬の滿洲在住民族のために幸福な政治をやつて見ようといふ氣持になつてきた。だが、併し先言のやうに決して西洋流の帝國主義でなく、滿洲を占領しても中國人・在滿日本人等の眞に共同の幸福を計つて行くといふことであつた。現に滿洲にあつた滿洲青年聯盟の昭和六年春の大會の決議には「諸民族の協和を期す」といふ文字を使つてゐるのである。

こんな關係で不幸滿洲事變が勃發すると、一時は滿洲占領論が主張せられたのだ。併し滿洲事變前、數年の抗日を標榜する國民黨の統一運動は、漢民族の政治的能力を絶望視してゐた我々の考へに再檢討の必要を潜在的につくり出した。且つまた一部の人間が如何に滿洲占領論を唱へても、依然歐米の實力を過大視してゐる日本國民には到底占領などといふ考へは思ひもよらない。かう云つたやうな諸關係や氣持が自然におちつく處が滿洲獨立國といふことになつてきたのである。

愈々獨立國に決まると、先に述べた在滿二十萬の日本人の氣持が、民族協和と云ふことが、建國の根本方針であり、民族協和を標榜する王道主義立國といふ必然の勢ひとなつた。而して相當眞劍に在滿日本人、及び一部滿人が王道滿洲立國をやつてきて見ると、進んで我々は三千萬漢民族の大きな惱みを何とかしなくてはならぬといふ事になつてきた。

その惱みとは何であつたか、卽ち三千萬漢民族から見れば如何に安居樂業の王道樂土が滿洲に實現しても、勝手に自分等が支那本國から分離するといふことは、本國はどうなつても我々さへ王道樂土であれがよい――これでは所謂漢奸の譏りをまぬがれぬ、といふことである。そこで、青年が集つて考へた結論は、王道といふことを主義とする處の、國防の共同・經濟の共通・政治の獨立、これを條件とする東亞聯盟の結成といふことに發展し、また東亞聯盟はさしあたり日本・中華民國、及び日漢兩民族等の共同經營である滿洲國、この三國家を包含せしむべきことゝなつた。

かゝる東亞聯盟論は滿洲建國の昭和七年に大體成立して、早くも翌八年三月九日に滿洲國協和會は次の聲明を發してゐるのである。卽ち

「滿洲國協和會は王道主義に基く建國精神を廣く國民に普及徹底せしめ、且つ確乎たる信念を持する國民を糾合し、反國家思想乃至は反國家運動を排擊し、民族協和の理想鄕の完成を期すると同時に、最後の目標は混沌たる狀態に在る全支那本土に民族協和の運動を及ぼし、進んで之を全東亞に弘め、東亞聯盟を結成することに依つて東洋文化の再建と東亞永遠の平和を確保するに在り」（大同二年三月九日滿洲國協和會會務要領）と。

この氣持になりこの考へがほんとうに實現すれば、三千萬の漢民族も心から滿洲建國に協同することになつたであらう。處がその後の經過を顧みれば、實際の東亞の現實はこの輝かしい理想についてこれなかつたのだ。滿洲事變後、もし日本或は中國に眞にすぐれた政治家があつて、この東亞聯盟の線・思想によつて、兩國が胸襟を開いてぶつゝかり、而して國交を根本的に整調打開し得たならば、我々數億の東亞民族の幸福ははかり難いものがあつたであらう。或は百步をゆづつて、日本が當時既に今次事變の決心を以て敵都南京を占領し、民族協和の滿洲國の獨立を國民政府に承認せしめ、同時に支那本部から速かに撤兵し、且つあらゆる政治的權益を進んで中國に返してやるといふ英斷に出たならば、今日の東亞形勢は相當輝かしいものになつて居たらうと思はれる。

併しかくの如きことは、事後の考へであつて、當時は及びもつかなかつた。不幸にも日支兩國は何等斷乎たる對策なく自然のなりゆきにまかせ、抗爭に抗爭を重ぬる道を步んできたのである。

三

我等は蔣介石の北支を根據とする滿洲國の攪亂に對して、數次北支に武力をふるはなければならぬハメになつて了つた。かくて政治の獨立といふことを最も重大な條件

とする東亞聯盟論は、せつかくの滿洲國の聲明にも拘らず立ち消えの狀態となり、遂に今次事變を迎ふるに到つたのである。支那事變起るや、我々日本國民は熱狂して暴支膺懲に向つて突進した。中國はこれに對して長期抗日を以て向つてきた。然るに、事變一年半で、日本國民も自然に我等が滿洲建國に於ける體驗のコースをふんできて、昭和十三年十二月、かの歴史的な近衞聲明となつたのである。

一方中國に於ても是に對應して汪兆銘氏の蹶起となつた。近衞聲明が東亞聯盟の結成をその究極の目的とせるものであることは本誌（東亞聯盟）創刊號の「主張」に出てゐるが、その精神は私も主義として極めて同感とする處である。

最後に、今や世界は未曾有の混亂期に入り、大きな轉換期に入つてゐる。この轉換期にあたつて優者たり得るものは所謂民族主義者ではない。なるべく多くの民族、なるべく多くの國民が、眞に協同し得るものに、勝利の榮冠は輝くであらう。覇道主義の西洋人に比べて、我々王道主義を長年、政治理想とせる東亞の諸民族は、西洋人に比し物質文明に於て遲れ、爲に數百年の屈辱を餘儀なくせられて居つたが、この歴史的大轉機に際して、迅速にこれが頽勢を挽回して優勝の地位を占めねばならぬ。而して是れがためには、滿洲建國の所產であつた處の東亞聯盟の思想・線に、ハツキリ目をさまして、從來のあらゆる混亂を一掃して、ほんたうに王道的の團結を計る以外に方法はないものと信ずる。

そこで私は日本國民に對しては、近衞聲明の實行に最も忠實であれと勸告すると共に、中華民國人と對してもよく是等のことを理解せんことを勸告するものである、

（文責記者）

滿洲建國と支那事變

石原莞爾

一

兵隊でこんな處へ出てお話するのは適當と思ひませんが、私も丁度滿洲建國當時滿洲に居つた關係上、今日の建國紀念日に、特に東亞聯盟と云ふ問題は滿洲國の建國當時からの最も重大なる主張でございますから、其の關係上、柄も考へないで此處へ來た次第であります。

滿洲建國と支那事變と云ふ演題の下に先づ滿洲建國の精神をお話をし、次に支那事變は其の見地からどう云ふ性質のものかと云ふことに就て私の意見を述べ、最後に今日の段階に於て如何に支那事變を處理すべきかと云ふことを、總て滿洲國の經驗からお話して見たいと思ひます。

馬は餘程腹をへらさなければ毒草は食はないのであります。牛や外の獸でもさうだらうと思ひます。所が人間の飼つて居る犬とか猫とか豚とか云ふものは毒を直ぐ食つて死んでしまひます。文明開化と云ふものは動物の優れた本能を無くしてしまふ。人

間もどうもさうらしいのであります。私は殆ど戰爭の經驗は無いのでありますが、演習で夜眞暗い原で將校斥候等を出しますと、仲々歸つて來ないのであります。地圖をよく見て居る將校が歸つて來ない狀況では、兵はとても駄目だらうとやつて見ると案外歸つて來る。一寸學問した將校さんよりも生の兵隊さんの方が勘が良いやうであります。斯う云ふやうな關係で私は滿洲事變といふものは、大體滿洲に居つた日本の御歷々から觀れば、學問もなければ見識もない連中がやつた譯でございますが、どうも勘は、少し學者方或は日本の指導階級の方よりもよくて、其の直觀でやつたことが案外重大なる所の歷史的意味を持つて居たのではないかと思ふのであります。

今申上げる迄もなく、滿洲事變の起きました頃は、ヨーロッパでは既に歐洲戰爭の結果、大きな變化をして居つたのでございますが、日本ではなほ歐洲戰爭で既に清算されて居つた所の自由主義の支配下に大體ありまして、事變が始まる前には滿洲なんかもう支那に返したが宜しいなどと云ふ主張が相當根據强く唱へられて居つた、さう

云ふ者は新しい人と云はれたのであります。所が現實に滿洲に居つて生活して居る者から見れば、殆ど怵へられない所の苦しい空氣の中に入つて居つたのであります。若い男振りの良い張學良が來たならば今度は何とか日本と折合がつくだらうと思つた。所がオツト是はとても張作霖に輪を掛けた所の凄腕でありまして、張作霖は苦勞人でありますから十分警戒をして居るのでありますが、學良は無鐵砲にグン〳〵押して來たのであります。

滿洲と云ふ處は我々日本人の考へに依れば、無論支那のものでありますけれども支那本部とは違ふ。昔は朝鮮人や滿洲人のもので、私の尊敬する或る人は、高天原は間島省か吉林省であると主張して居るのである。元は我々は滿洲から來た、つい近年迄は我々北方民族の土地であつたのであります。漢民が入つて居つたのは錦州省乃至は奉天省の南部だけであつて、滿洲の大半は漢民族の地ではなかつたのであります。又明治以後日本民族がロシアに對してあの滿洲を護つて居ると云ふ見地から云つても、

決して支那のものだけでない。法律的には支那のものであるかも知れませぬ。現實の問題では是は諸民族共同の財産でないか、何とか是は我々がやつて行かなければならないと云ふ氣持になつて來たのであります。さうして何かあつたならば寧ろ滿洲に於ける二十萬の日本人が先頭に立つて支那本土から離れて、滿洲獨立を圖らうと云ふ氣持が、學問の無い、御役人でもない一般民衆の中に、非常に強くあつたのであります。さうして面白いことにはさう云ふことを云ひ出して居た日本人は、張作霖・張學良は確かに敵であるが、あの營々として働いて居る三千萬の支那大衆は我々の味方であつて、寧ろ同じく張政權から迫害を受けて居る所の被壓迫の狀況にある、あれ等と一緒に滿洲を作つて行かなければならぬ。斯う云ふ見地から昭和六年の春滿洲事變前に、滿洲青年聯盟と云ふ――日本にも來て滿洲事情に就て數回話されたこともありますが――有志團で作つた所の滿洲に於ける民間の有力なる團體であります。今此處で御話になつた八木沼君（新民會中央訓練所長）なんかさう云ふ時に相當なメンバーであつたと想像して居るのですが、はつきり憶えてゐませんが昔は仲々嚴しい顏をして怒鳴ることが好きでありましたから多分さうであつたらうと思ひます。其の青年聯盟の昭和六年春の決議の一項に「諸民族の協和を期す」と云ふ項があるのであります。滿洲は我々の手で支那本土から離してやらう。其の經營と云ふものは諸民族相爭ふのでなく、本當に民族協和でなくてはいけない、と云ふ結論に達した時、昭和六年の秋九月十八日、柳條溝の鐵道爆破がありました。誰云ふとなしに滿洲獨立の機運が澎湃として起りました。其の勢で自治指導――是は正しく八木沼君邊りがやつて居つたのでありますが、自治指導部の結成となつたのであります。所が民族協和と云ふことは日本のインテリの方々は、一種のカムフラージュである、出來るものかと思つて居つたのであります。又滿洲に於けるハイカラな人もさう思つて居つたのであります。

然るに民族協和の眞先にくつついて來たのは朝鮮人の諸君であります。朝鮮は日本に併合以來非常に良くなつたと思つて居りますが、西洋人の多くの人もさう云ふ、又

實際良くなつたらしいやうです。米なんかあんなに穫れて日本にくるのでありますから良くなつたらしいのでございますが、朝鮮民族からみればどう言つてもやはり氣が進まないらしいのでございます。少し强氣のある者は、何とかして獨立をしようと考へて居る。殊にウイルソンの民族自決以來は其の氣持が非常に盛になりまして、朝鮮の若い人は監獄に引張られるのが多いのでありました。凡ゆる獨立鬪爭をやつたのでありますが、やつて見ると結論はどうもうまく行かないのであります。確かに日本の統治も惡いかも知りませんけれども、李朝時代に比べれば文化が急速に進歩して居ることは否定することは出來ません。併し何物か胸に痞へて居る。どうしてよいか分らない時に滿洲建國・民族協和となつたのであります。眞面目な朝鮮人諸君が心から滿洲建國・民族協和に協力して吳れたのでありまして、朝鮮民族たる自由と誇を尊重されながら日本民族と協同して行けるのだつたら、心から喜んで日本國民になつて行けるのだと云ふ所の自信が出來、三十年來爭つてきた民族の問題と云ふものは玆に初めて解決の本當の正しい道を得るのだ、斯う云ふ風に朝鮮人は考へてきたのであります。今度の支那事變に於ける所の半島同胞諸君の奮鬪の赤誠も、色々の事情もありませうが此の空氣に力强く押されて居るものであらうと私は考へて居ります。

我々日本人として東亞の問題を解決して行く爲には、先づ第一に我々と一番血の近い、一番關係の密接な朝鮮人の問題を何とかして行かなければならぬのであります。朝鮮人は此の三十年の苦勞に依つて心から悟り得た所の此の氣持を、我々日本人としてはよく了解してやる必要があると思ふのであります。所が今日朝鮮人の印象は自分等が民族協和の精神でこれからやつて行かうとの本當にはつきりした悟を開いたにも拘らず、兄貴分の日本內地人は我々朝鮮人を見ること、十年前滿洲事變前のあの民族鬪爭・民族獨立と云ふことに直ぐ取つて來る。我々の心を少しも酌んで吳れないと云ふ不滿が相當力强く働いて居るのぢやないかと思ひます。此の話は今日の話の橫道になつて來ましたから此の位にして置きます。

要するに民族協和と云ふ問題で先づ我々と一番近い朝鮮人諸君の非常な共鳴を得たのであります。民族協和は、東洋の昔からの政治道德の根本義に卽應するのでありますから、漢民族が之に贊成したのは無論であります。贊成するけれども漢民族の諸君としては民族協和ではどうしても納得出來ない。如何に滿洲に王道樂土の理想鄕が出來た所で、最近漢民族は非常な速さを以て民族的國家的自覺を呼び起して居るのでありますから、若い知識階級は支那の本部から別れて日本人と組んで、本國に弓を引くと云ふことはどうしても氣が進まない。滿洲は確かに日本人と支那人との共同の殖民地であります。共同の殖民地であるから、是が獨立國になることは良いのであるが、併しそれが爲にはどうしても本國の了解を得なければならぬ。日支兩國が本當に心から了解する方針でなければ贊成は出來ない。斯う云ふ氣持が三千萬在滿漢民族の心の中には動かすことの出來ない所の感情であります。其の結果日支兩國の當時滿洲に於ける知識人、と云つても非常に程度が低い譯ですが、さう云ふ連中が集つて考へたものが東亞聯盟と云ふ問題であります。

二

東亞聯盟と云ふのはどう云ふのであるかと申しますと、差當り日本と支那及び日支兩民族の共同の經營地である所の滿洲國の獨立を認めて、其の日滿支三國が提携の原則を次のやうに定めるのであります。其の方針は國防は白人に對して共同して東亞の天地を護る、經濟は本當の共榮共存を目的として極力共通にして行かう、經濟の一體化を圖つて行かう、然し日滿支三國は各々其の國の特徵に於て政治は獨立をして、內政の干涉はお互にやらないことにしよう、斯う云ふ條件であります。さうして王道の精神に基いて全く精神的に提携をして行かう。それならば我々も贊成が出來る、それならば我々も心から滿洲國の建國に全力を盡さう、斯う云ふ風に三千萬の支那人の知識階級は私共に共鳴して與れた次第であります。卽ち滿洲建國の過程に於て、必要に迫られて滿洲の國內では民族協和と云ふ問題となり、國際的には王道に基く所の東亞

聯盟の結成、斯う云ふ風になつたのであります。先に申しました通り是は知識程度の低い在滿二十萬の日本人、特に民間の人々の本能・直觀力が茲に持つて來たのであります。大きな變革の時代は當時の指導的知識階級と云ふものは、案外古いことを考へて新しい方向が判らないのであります。却て學問も何もない微力なる人間の直觀力の方が新しい時代をよく示して居るらしいのでございます。私の軍事論は今日之を始めると時間が掛りますからやめようと思ひますが、若しもお調べを頂けるならば今其處で東亞聯盟協會刊行の「昭和維新論」と云ふものを賣つて居ります。其の「昭和維新論」の前の方に私の軍事上の見地から世界歴史の趨勢を判斷して居る。其の判斷は幸に此の東亞聯盟協會の「昭和維新論」には御採用頂きまして、大體私が方々で講演したことを簡單で分り難いかも知れませんが、簡單不明瞭に茲に書いてありますから、之を御覽頂ければ大體分るのでありますが、要するに今から百五十年ばかり前に西洋にフランス革命がございます。フランス革命までは文藝復興に依つて招來せられました所の横隊戰術が根本になりまして、長期戰であります。所がフランス革命以後、横隊戰術は散兵戰術になつたのであります。長期戰爭は短期戰爭に急轉直下したのであります。そしてフランス革命から歐洲戰爭迄は戰爭と云ふものは極めて短期間に片付くと思つて居つたのであります。所が其の短期戰爭が發達して來ました究極の歐洲戰爭が、御承知の通り四年半と云ふ素晴らしい長期戰爭に變化をしてしまつたのであります。今日世界は新しい戰術を採つて居るのであります。之を戰鬪群の戰術と私は假に言つて居りますが、散兵戰術は散兵の線の戰術でありましたが、戰鬪群は面を以て戰ふ所の戰術であります。こんなことは餘り專門的なことですからお判り難いことでありませうが、さう云ふ風な非常な大きな變化を來したと云ふことだけを見て頂ければよいのであります。

三

此の戰爭上大變化を來す時は必ず社會的に大きな革命を來す時に定つて居るのであ

ります。是は人間の歴史を見れば皆さうなんです。でありますから第一次歐洲戰爭と云ふもの以後世界は大きな革命の進行中にあるのであります。最初一寸申しましたが、日本は自由主義を讃美して居る間に、自由貿易の本家本元である英國は歐洲戰爭後自由貿易を清算致しました。自由貿易が清算せられて而も經濟機構・生產機構と云ふものは驚くべき大擴大を來したのであります。其の關係上歐洲戰爭迄の國家主義の時代からブロックの時代、言ひ換へれば一つの國家だけでは駄目だ、成可く關係のあるものが一つの組織へ入つて、此の時代に處して行かうと云ふ空氣になつて居るのであります。御覽の通り今日、世界は見方に依つては四つ或は五つの大きな集團になりつゝあるのであります。南北アメリカの一つの團り、ソビエットと云ふ社會主義國家の一つの團り、それからヨーロッパは喧嘩しながらも運命的に一つのものになつて居るのであります。東亞にも今、日支二大民族が非常な喧嘩をして居りますが、之も一つにならなければならない所の運命になつて居るのであります。其の外にあの老獪なる所

の英國の大きな團りがあります。あゝ云ふ風に方々に離れ〳〵になつて居る所の英國は現實の問題から言へば、世界に於ける驚くべき大きな一つのブロックであります。然し本當に實力を持つて居るのではないから、言ひ換へて見ればあの大事なカナダと云ふものは軍事的に合衆國の勢力下にあるのであります。それから南洋や濠洲は我が溫度なる日本國が勘辨して居るから英國が持つて居る。（拍手）それから印度と云ふものは日本或はソビエットの力の方が英國の力より强いのであります。現在英國が實力をもつて確實に掌握し得るものはアフリカの殖民地だけであります。歴史的惰性に依つて保持して居るのでありますが、現實の情勢は大きなブロックでありますけれども私は軍事的見地から見て英國には死刑を宣告致しまして世界は四つになつて居る、と見るのであります。

所が私の軍事的研究から觀れば更に是は直ぐ間もなく世界は一つになるのです。戰爭は數十年後に出來なくなる、今の長期戰爭のその次には素晴らしい短期戰爭が出て

來ます。極めて短期間に戰爭の運命が決定せられる時が來るのです。それは何かと云ふと空軍の勝負であります。我々陸海軍の軍人が失業狀態になる譯です。（笑聲）陸海軍のやうなまご〳〵したもので世界は一つになりません。世界は空軍で一擧に勝負がつく時代が必ず來ます。それが極めて近い期間に來ると私は思つて居るのであります。此の本（『昭和維新論』）には二・三十年後に來ると云つて居ります。人間の歷史あつて以來今が一番大きな時であります。今に世界は一つになる、でありますから私共は今は準決勝の狀態だと言つてよいのであります。我々東亞の組と何處かもう一つの團り卽ちソビエットの團りとヨーロッパの團りとアメリカの團りの三つの中でどれかが我々東亞の團りと準決勝に殘るのであります。さうして三十年位過ぎると此の準決勝に殘つた奴が、もう人類の歷史で未だ曾て見ざる所の殘虐極る所の大戰爭を最短期間にバタ〳〵とやつてしまふ。（笑聲）それで世界の人口が恐らく半分になつてしまひませう。是でとても戰爭は出來ないと云ふことが心から判りまして世界が一つになる。

皆さんは笑ひますけれども笑ふ所が皆さんに時代の重大性が判つて居ない證據です。まあ五十錢か三十錢か奮發して此の本を一遍讀んで頂きませう。（笑聲）

四

此の見地から見まして、滿洲大衆の直觀力に依つて打立てた滿洲建國の所產である東亞聯盟と云ふものは、極めて妥當であると云ふことを私は固く信じて居る次第であります。明治御維新は各藩の對立を打倒して天皇の下に日本が一體になる運動でありました。廢藩置縣が明治御維新の政治的スローガンでございます。それに對して昭和の維新はどう云ふことであるかと申しますと、「昭和維新論」には、世界最後の大戰爭は數十年後に近迫して來た、昭和維新とは東亞の諸民族の全能力を綜合運用して、此の決勝戰に必勝を期することに外ならない、と云つて居るのであります。世界決戰と云ふ三十年後に迫つて來た、言ひ換へれば天皇が世界の天皇になられるか、何處かの大統領が世界の支配者になるか其の運命を決定する所の人間最後の戰爭に備へ、必ず

勝つ所の體制を整へることが昭和維新と云ふのであります、私は極めて之に同感であります。此の見地から日本だけでは此の力を發揮することは出來ないのであります。今協力し得る運命に置かれて居る所の先づ東亞の諸民族を率ゐて行かなければならぬのであります。廢藩置縣が明治御維新の政治的スローガンでありました、昭和維新の政治的スローガンは東亞聯盟の結成であります。卽ち滿洲建國と云ふものは歐洲大戰後不可避と考へられて居りました所の昭和維新の問題を明らかにしたものであります。王道に基く東亞聯盟の結成、この昭和維新の根本方針も既に今から八年前に滿洲建國に於て、在滿二十萬の我が同胞が發見して呉れたのであります。以上の見地から私は其の次に支那事變の本質に就て若干お話して見たいと思ひます。

五

東亞聯盟協會で出してゐる雜誌「東亞聯盟」正月號に支那派遣軍總參謀長板垣中將閣下が、「東亞聯盟論に寄せて」と云ふ題で書いて居られます。滿洲事變後本當に日本に力强き政治があつたならば、此の昭和維新の根本方針であるべき所の、東亞聯盟の線に沿ふて蔣介石に眞向に打突かるべきだつた。さうして日支兩民族の共同財產である所の滿洲の獨立を承認しろ、承認して日滿支が王道の精神に依つて提携し此の時代に卽應する所の力を作つて行かう、君等がその積りになつたならば我々は直ぐ支那本部から撤兵する、撤兵だけでなく御褒美に治外法權も返してやらう、其の他我々の持つて居る政治の權益は全部返してやる。斯う云ふ風に云つて若しもそれが出來なかつたならば今度支那事變に我々が奮發しただけの勇氣を出して、北京・南京を昭和七・八年には取つてしまつて、どうだ蔣介石參つたか、其の頃は未だ蔣介石も十分力が無かつた、參つただらう判つただらう、滿洲の獨立を承認せよ、判つたならば引上げてやる。さうして徐ろに東亞聯盟の線に彼等を誘導して來る、此のどつちかを採るべきだつた、と云つて居るのです。

確かに今見れば其の通りだと思ひます。是だけえらいことが判つたならば日支の提

携は數年前に確立し、第二次歐洲戰爭の波に乘じて更に廣い東亞の大同團結を完成し得ただらうと思ひます。所が板垣閣下のやうな偉い人の智慧も後から出て來る。誰でもさうであります。あの滿洲事變に對して發見された原理がそれだけの大物とは誰も思はなかつたのです。滿洲事變後日本は確乎たる方針なく、日支兩國は紛爭に紛爭を重ね、滿洲建國數年にして到頭支那事變になつたのであります。支那事變と云ふものは完全に滿洲事變の延長であります。日本人は滿洲事變は終つたと思つて居る。それは大間違で滿洲事變は斷じて終つて居ないのであります。日本人自分だけ勝手に終へて居つた、支那では滿洲獨立を絕對に認めない、世界が殆んどどの國も認めない。さうして日本が支那と兎に角平和の狀態にあつたのは上海の停戰協定、太沽の停戰協定、言ひ換へて見れば休戰狀態になつて居つただけであります。昭和十二年七月蘆溝橋の銃聲に依りまして、其の停戰が破れただけのことであります。此の見地からお考へになれば直ぐ判ります。明治維新の政治の方針である所の廢藩置縣と云ふ、明治初年に發見された原則は判つて居るけれども、仲々昔の殿樣が戀しくて廢藩置縣の實行が徹底しない。已むを得ず明治十年の西南戰爭になつたのであります。西南戰爭に同胞相食む所のあの悲慘なる犧牲に依つて、やつと御維新の最初に發見された所の指導原理の廢藩置縣が完全に行はれるやうになつたのであります。昭和御維新の指導原理である所の東亞聯盟と云ふものは、滿洲建國直後に發見せられた。滿洲國協和會は、昭和八年三月九日、滿洲建國の精神である所の、民族協和を支那本部に及ぼして行つて、遂に東亞聯盟を結成するのが我々の目的であると云ふことをはつきり聲明して居るのであります。此の滿洲國建國當初に發見せられました昭和御維新の指導原理である、東亞聯盟と云ふものは遺憾ながら一部の人にしか了解出來ないので、到頭滿洲事變が再發して今度の事變になつたのであります。丁度今度の事變は明治御維新後十年の西南戰爭に該當する所の東亞の××であります。近衞公爵が昨年の支那事變の紀念日に放送しました通り正しく東亞の××であります。誠に適切な表現と思ひますが、

流石の近衛公も事變二年後に初めてはつきりかう云はれたのです。然し決して近衛公爵だけでありません。斯くの如き大きなことは最初から判るものではありません。誰が良い誰が惡いと云ふことはありません。致し方がない、此の見地で私は靜かに振返つて支那事變發生以來今日迄の日本の輿論の動きを回想して見たいと思ひます。

六

最初の事變が起きると直ぐ不擴大主義、斯う云つたのです。滿洲事變の時も內閣は不擴大主義でありました。があの時の不擴大主義と云ふものは性質は違つて居ります。蘆溝橋の銃聲でアッと思つたが國民全部寢ぼけて居つたやうな狀態でありました。それでも夢中で不擴大主義、と言つたのです。（笑聲）けれども昭和十四年の七月の近衞さんが目を醒してはつきり東亞の××と言つた氣持は、其の寢ぼけて居つた昭和十二年の日本國民の中にやはりあつたのです。日支間と云ふものは決して喧嘩すべきものでない、東亞の××と云ふ氣持がありましたから不擴大主義と云つた。滿洲事

變當時は當局が英米の壓迫を恐れて、恐しいものであるから、是は大變だと云ふので不擴大主義と言つたので、其の本質に於て大きな差があると私は思ひます。併し幾らも不擴大主義と言つても運命と云ふものは不可避であります。明治御維新で日本人內ですら十年の西南戰爭と云ふものは節約出來なかつたのです。文字通り同胞相食んだのであります。更に大きな昭和御維新であります。而も民族の違つた日支間であります。どうも滿洲事變だけでとても斯くの如き大問題の解決は出來ないのでありまして、本能的に不擴大と言つたけれども現實はドン〳〵發展した。さうすると聖戰と云ふ、聖戰と云ふ言葉は滿洲事變にも使はれましたけれども、國民的のスローガンとなつたのは全く今度の事變の特徵であります。聖戰と云ふのは滿洲國の王道卽ち皇道の大精神であります。儲ける爲や、或る物を取る爲でないのであります。道の爲の戰ひであります。東亞大同の爲の戰ひであります。どうも日本人は素晴らしい、寢ぼけてゐながら兎に角此の事變の本質を摑むだけは摑まへた。所が悲しいかな、意識がはつきりし

て居りませんですから、頭では聖戰と考へたが、手足は西洋模倣の帝國主義を拔けきれない。未だ今日でも淸算出來ない實況であります。が、口で聖戰と云つても實行は必ずしも直ぐ聖戰であり得ると云ふことは困難であります。

初めは夢中で暴支膺懲と云つたのでありました。暴支膺懲は確かに聖戰の一つの手段でありますがやつつけると云ふだけでは建設的意義がありません。それから板垣中將が陸軍大臣就任當初、昭和十三年五・六月頃長期建設と云ひました。そして若干建設的意義を表して來たのであります。さうして昭和十三年の秋に漸く東亞の新秩序建設と云ふ言葉が出て來たのであります。東亞の新秩序と云ふスローガンが、內閣總理大臣に依つて聲明せられますと、支那事變最初から一部の人に依つて唱へられて居りました所の、東亞協同體、新秩序の一つの具體案となつて東亞協同體と云ふものが非常な勢を以て識者に唱道せらるゝに至つた。滿洲事變の時に名乘りを擧げて而も遺憾ながら、長く日本國民からは認められなかつた所の東亞聯盟と云ふものが再び大きく世間に現れて來るやうになつたのであります。東亞聯盟論は滿洲事變が生んだ所の覇道的帝國主義時代から、本當に王道・皇道の精神に基く所の東亞の大同を企圖した所の方針であります。さう云ふ議論が民間に行はれて來た時に數次の近衞聲明となつたのであります。特に昭和十三年十二月二十二日の近衞公の談話は此の事變處理に就て、可成り具體的な發表をして居るのであります。各方面色々に議論せられましたが、此の近衞聲明と云ふものは目下日に日に事變處理の根本方針として國民的に認識せられつゝあります。併し私から見れば此の近衞聲明の特に最も具體的である所の近衞公の談話其のものが未だ色々に解釋せられるのであります。

東亞聯盟協會の機關誌の「東亞聯盟」の創刊號（主張）には具體的に東亞聯盟の見地から見ました所の、近衞聲明の解釋を書いて居ります。是は是非御覽を頂きたい。要するに近衞聲明と云ふものはつきり我が東亞聯盟の原則に依つて立てられたものである。王道の精神に基いて國防の共同・經濟の一體化・政治の獨立、此の條件に依る

所の日滿支提携を原則として認めて書かれたものです。ただし今和平が成立致しましても直ぐ東亞聯盟の今言つた理想的な狀況にはなり得ませんから、和平成立から東亞聯盟の結成、本當に心から東亞大同の出來るまでの臨時に中華民國に要求する所のものを具體的に示したものである。斯う云ふ解釋を東亞聯盟協會では言つて居るらしいのであります。さうして先に申しました所の正月號の「東亞聯盟」では、板垣中將が、當時近衞聲明の出た時の重大責任者であり陸軍大臣である板垣中將が、此の見解は全然同意であると云つて居るのであります。言ひ換へて見れば私は近衞聲明と云ふものは正しく滿洲建國の所產である所の東亞聯盟の原則に依つて打ち立てられたものであらうと思ふのであります。

處が必ずしもさう云ふ風に近衞聲明を讀んで居ないのであります。激しいのは近衞聲明に反對してゐる。表面近衞聲明に贊成してゐるのも、未だ東亞聯盟の線に依つては考へて居ないのが非常にあるのではないかと思ひます。多くのインテリ階級の人なんか、北支は日本の勢力範圍としろ、中南支迄は全日本の力が足りないからそれはまあ宜しい、防共駐兵と云ふ名前を以て兵隊を駐屯させ此の次用意が出來たならば頂戴に土りますぞ、まあ然しさう云ふことを云ふと餘り露骨だから王道・皇道の精神に依つてカムフラージュして賠償は求めない、領土は求めないとする、民族と云ふものがある間民族の鬪爭は不可避である。是だけの戰爭に依つて是だけの犧牲を拂つて唯おめ〳〵退れない。斯う云ふ解釋を言つて居る者が多いのぢやないかと思ひます。それで此の二つの行き方をはつきり國民的に決着付けることが刻下事變處理の最大眼目であります。

七

私共滿洲事變以來東亞聯盟を主張して來た人間は先に申しましたやうに主張するのでありますが、此の反對論では、東亞聯盟なんかといふ考は極めて消極的な敗戰主義だなんかいつて、攻擊するのでありますが、この反對論者、所謂權益主義者は西洋か

ら今日迄習つて來た所の帝國主義的行き方で是こそ極めて反動的な、先に申しました所の新しい國家聯合の時代精神を辨へない反動主義者で、實は非常な消極論であると考へるのであります。

經濟の問題は私は全く商賣外で判らないのでありますが、一番具體的な問題でありますから常識的に一例を擧げて云つて見ませう。東亞聯盟は極めて時代に卽應した進歩的なものであります。八紘一宇の大精神に依つて私共は主張して居るのでありますが、それは姑くお預りして單なる利益を中心にして考へましても極めて合理的であります。例へば交通の問題であります。帝國主義時代の鐵道は鐵道の利權を求め、何々の鐵道は日本の權益、さうしてそれに日本の資本を入れて資材を賣る。人間も澤山行く、さう云ふ風にして成可くそこで儲けてその儲けを日本の資本家の懷に入れると云ふことであります。確かに資本家は相當儲かつただらうと思ひます。然し我々東亞聯盟の交通政策はさう云ふものではありません。支那の鐵道は皆支那の國有なら非常に好いぢやないかと考へて居ります。併し經濟一體化の精神に依つて其の支那の鐵道が最も能率のあるやうに運用せられなければなりません。支那は日本の技術資本を喜んで使用するであらうと思ひます。唯日本は日本の國家權力で支那の犧牲の下に支那から搾取する爲に日本の技術や資本を入れるのではありません。支那の交通を最良の狀態にする爲に協力するのであります。唯それだけでありません。支那の鐵道滿洲の鐵道朝鮮の鐵道は同じ方式で運營せらるべきものだと思ひます。我々の急行列車は朝鮮を通り支那を通つて漢口廣東迄或は昆明迄、或は蘭州迄何處迄も同じ汽車に乘つて好い氣持でズウッとやつて行く。斯くの如くして東亞大陸の交通が最良の狀態になると云ふことは、東亞經濟の全場面に驚くべき利益を與へるものであります。日本人・朝鮮人・支那人悉くが又凡ゆる經濟の場面に於て凡ゆる政治の場面に於て其の他の文化的方面に於て非常な利益を受けるのであります。どの鐵道を日本に讓つて置け、どの鐵道は日本に委せるなんと云ふしみつたれな僅か資本家の財布を膨らすのとは違ひまして、

驚くべき積極性を帶びて居るのであります。其の精神に依つて逐次關税の問題も合理的なる所の方法をやつて行き、成るべく速かに之を撤廢するやうにする。幣制も極力協調し完全なる統一を目ざして積極的に建設して行く、産業も其の地方々々の特異性に依つて最高の生産能力を發揮し得る樣に發達せしめて行く。斯う云ふことになりまして日滿支東亞聯盟の地域全體が驚くべき經濟能力を發揮して行かう。「昭和維新論」には二十年を目標として此の東亞ブロックの經濟能力が斷じて、世界のどんなブロック、恐らくアメリカの繁榮以上の繁榮を此の東亞に持つて來なければいけないと主張して居るのであります。帝國主義者は何處の利權を取らう、澤山條約に判をとつて何か取らうと考へて居るが、東亞聯盟は經濟的利益の見地から云ひましても幾百倍の積極性を帶びて居るのであります。どうも此のことが判らないのです。

前に申しました準決勝の時代に、科學文明に立ち遲れた爲め今日の如く微力な狀態となつて居る東亞がよく强敵と爭ひ、選手權を獲得し、進んで決勝戰の優者となる爲めには、西洋人が近隣相爭ふの愚を止め得ないのに對し、我等東亞の諸民族が、王道の精神に基き、忠恕の心を以て相協力して、其の綜合力を發揮する以外には道がないのであります。東亞聯盟結成の最重要條件の一つである經濟の一體化も、此の氣持になれば案外容易に進展し、日支の和平も不動の基礎の上に確立されると信ずる次第であります。

八年前の滿洲建國に大體滿洲の獨立の運命が決定せられました。昭和七年の正月大阪朝日の主催で奉天で滿洲建設座談會と云ふものを開いたのであります。當時私は中佐でした、今は中將で威張つて居りますが。（笑聲）當時は未だ髮の毛が少しあつたのです。（笑聲）さう云ふ處へ出る柄でないから賛成しなかつたけれども、或る退引きならない私の立場がありまして行つたのであります。出ると于冲漢と云ふ自治指導部の部長であるお爺さんが鶴の如く痩せた恰好をして出て來て居るのです。さうして朝日新聞の主催者が早速滿洲は獨立國が宜しいか獨立政權が宜しいかと聞いかのです。こん

なことはあんた方判らんでせう。八年前に滿洲の獨立なんて云ふことは、日本の兵隊さんの中でも、それは無茶だ、內蒙のやうに支那の主權下にあつて獨立政權と云ふものにするが穩當だと云ふ考へが當時支配して居つた。さう云ふ時に朝日新聞社の主催者が于冲漢先生滿洲は獨立國がよいでございませうか獨立政權がよろしうございませうか、斯う聞いた。于冲漢は獨立國でなければいけません、とはつきり云つた。是が支那人ですよ。私は今の汪兆銘氏に勝る所の勇氣であつたと考へて居ります。滿洲の要人が進んで新聞に公開する所の座談會で、獨立國でなければいけませんと云ひ切つたのでした。

それでは獨立國になるとしたらどうすれば宜しうございますと訊ねて來た。當時お役人なんか澤山居りましたがどうもはつきり云ひません。石原さんどうしませうかと聞くから、私は根が正直なものですから、獨立國である以上は我々の持つて居る物を全部滿洲國に差上げませう。治外法權も附屬地の行政權もこんなものは全部卽刻滿洲

國にやりませう。さうして日本人も滿洲國人として滿洲國の構成分子として働きませう、斯う云つたのです。朝日新聞では私の云ふ事を軟かにして書いて呉れたのです。私にはよく分りませんの次の日か于冲漢先生何か書いたものを送つて呉れました。其が、篦棒に褒めてあるらしいです。于冲漢氏とはそれ迄駒井德三氏の引合せで一回だけ會つたことはあつたのであります。それと座談會と二回しか會つて居なかつたのでありますが、此の座談會の後、于冲漢氏の病氣はだん〳〵惡くなりましたので、私は于冲漢さんの見舞に參りました。于冲漢氏が非常に喜んで病室で寢臺から起きて來たのです。さうして握手して私に云ふ、石原さんあなたは商賣が上手だ。附屬地なんと云ふものは滿洲鐵道の側、一寸顯微鏡で見なければ分らん程小さいものであります が、このちつぽけな附屬地を呉れて滿洲全部を取つてしまふ。于冲漢私の手を締付けてボロ〳〵涙をこぼした、それを私は今でも忘れることは出來ません。（拍手）私は日本人は此の氣持をよく酌んで頂きたいと思ふのであります。于冲漢氏は其の後間もな

く死にましたけれども、鄭孝胥氏が國葬であるならば于冲漢氏も當然に國葬にすべきだつたと思ひます。樞要な位置にありながら何者にも憚らず自ら滿洲は獨立國であるべきだと言つた滿洲の大官は餘り澤山ないやうです。今日、滿洲建國紀念日に私は個人的に何も深い緣故はございませんけれども、建國の最高の功勞者である于冲漢氏の功績を皆さんの前で發表し得るのは私の非常に欣快とする所であります。

ついでに申上げますが此の治外法權であります。私は卽刻治外法權を滿洲國にやれと云つたのであります。一體私共は澤山の法律があるのですが法治國と云ふものは良いものでございませう。然し法治國になると人間が惡くなるやうです。法律にさへ觸れなければ惡いことをやつてもよいと云ふやうな氣持は私は悲しむべきことだと思ひます。法治國と云ふものは人間の最高の理想では斷じてないと思ひます。道德常識で治めなければならぬと考へます。今の法律と云ふものは日本人の爲に作つた法律でないものが多いと思ふのです。大體西洋人の爲に作つたのです。と申しますのは今から數十年前日本は今の支那、或は事變前の滿洲と同じやうに西洋人が治外法權を持つて居つたのであります。其の治外法權を免れんが爲に我々には必要がないが、法律に依つて社會統制をやつて居ります所の西洋人に必要な所の法律を全部作つたのであります。それを作らなければ西洋人が斷じて治外法權を撤廢しませんでした。

此の驚くべき被害を私は親愛なる滿洲國にはかけたくなかつたのであります。だから我々は直ちに治外法權を撤廢せよ、法律が必要ならば其の法律は友邦日本國の法律を準用する、斯う云ふお布令を出せば何でも出來るのです。（笑聲）但し私は條件を附けます。日本は暫くの間領事裁判を殘しておき、日本人は領事裁判所に上告する權利を保留しておくのであります。どうも然し日本の偉い人は仲々さう云ふ常識論には贊成しないのです。我々は毛唐から毆られた通り又滿洲人を毆つた。之も作れ、之も作らなければ治外法權は撤廢しないとて、五六年かゝつて日本にあるやうな法律を全部作つてしまつた。滿洲人は日本の役人を法匪と言ふ、法律の匪賊です。そして或る人

は、中華民國にも法律はあつた、併し中華民國の人は飾り物に置くので關係はなかつた。日本人は滿洲に來て作つたものは全部實行するから困つてしまふ、と訴へるのであります。我々が西洋人からいぢめられた通り、竹篦返しを我が弟の滿洲國にやつたのであります。而も六年間かかつて治外法權を撤廢した時にはもう有難いとも何とも思ひません。却つて治外法權を撤廢し附屬地を撤廢したに伴つて、無理解な日本人の役人の權力がグンと伸び出し、滿洲人諸君は是はとんでもないことになつたと云つて居るのであります。斯う云ふ經驗は今度支那事變を處理する時に何かの參考になるかと思つて私は申上げる次第であります。

八

以上申上げました通り、此の東亞聯盟は極めて積極的で時代的に正しく日本國の向つて行かなければならない方針であります。でありますが先に申しました通り長く西洋風な帝國主義的訓練を受けて居る日本人、特に知識階級に於ては仲々此の事を判つて下さらないので色々と申上げるのであります。私共は出來るだけ其の方々とお話し論爭をして行かうと思ふのでありますが、然し私は此の席上では理論を超越して天皇陛下はどう思召して居られるだらうかと云ふことを拜察致したいと思ふのであります。私共は臣下としまして私共の智能の許す限りの最喜の研究努力は致します。併し總ては聖斷に依つて決定しなければならぬ。紀元二千六百年の今日、日本國民は八紘一宇と云ふ御精神の判つて居ない人はないのであります。八紘一宇と云ふのは斷じて支那から或る權益を取つて來て、日本人が儲けると云ふ御精神ではありません。明治天皇は日露戰爭の最中に

よもの海みなはらからと思ふ世に
なと波風のたちさわくらむ

と仰せられたのであります。よもの海みなはらからであります。兄貴が弟からものを取つて來ると云ふことは斷じて天皇の思召にそひ難いのです。

本年の御製に

西ひかしむつみかはして榮ゆかむ
世をこそいのれとしのはしめに

此の大事變の年頭に畏れ多くも陛下の御祈りであります。誠に有難い極みであります。然るに此の御祈を國民はどう云ふ氣持を以て拜誦して居るか、私は日本國民に對して猛反省を促さざるを得ないのであります。

是だけの犧牲を拂つた以上は、支那から何か取つて來なければいけないなどと議論するのは不敬に當ることゝ思ふのであります。議論するの餘地はないのであります。民族と民族の間は常に鬪爭である、國家と國家との間には相剋は不可避であるなんと云ふことを西洋風に固く信じて居る人々は斷じて皇道の信者ではありません。皇道の信俸者ではないのであります。八紘一宇・四海同胞・此の御精神であります。私は先に英國を批評しましたが、惡口ではありません、あるが儘に云つたのであります。私

共は先方が無法な事をしない以上斷じて西洋を敵視する考へはないのであります。皆我等の同胞となるべきものです。現實問題では八紘一宇の精神を世界に實現して行くのにはどうしても順序があります。是は天子樣が御示しになつて居ります。「西ひかし」と仰せられたのは大きい意味に於ては八紘一宇四海同胞の御精神に依つて東洋西洋全部を御示しになつて居ることは明瞭であります。然し今日の段階におきまして西東は小さく見て日支間の問題であります。數次の詔勅には東亞の安定、東亞の平和、東亞永遠の安定、斯う云ふことを今次事變の目標として御示しになつて居るのであります。さうして其の東亞の安定と云ふものは世界平和の確立に寄與する所以であると仰せられたのであります。此の見地から八紘一宇の精神を實現する爲に、我々は今日、日支間の心からの提携をしなければならぬのであります。此の氣持さへ國民がはつきり摑んで下されば、私は今次事變は遠からずして輝かしい成果を以て解決するものと思ひます。言ひ換へて見れば十年戰爭に依つて廢藩置縣が完成したと同じやう

に、此の氣持だけ判つてきますれば此の東亞の××は此の大きな犧牲に依つて東亞聯盟の輝かしき成果を擧げ得ることと信ずる次第であります。

九

そこへ到達するに就て今日の段階に於て注意しなければならぬことを申上げて見たいと思ひます。

支那は簡單に片付くものと一般に考へられましたが仲々やめません。結構です。支那が弱ければ兄弟分としてやつて行くのに心もとない、がつちりやつて呉れるので私は最も愉快とする所であります。お前よくなつたな、十年前の支那に比べると見違へる程成長した、と云つてやりたい氣持がします。今喧嘩して居つても直ぐ味方になるべきものであります。然し喧嘩して居る間はやつつけなければならぬ。

所が戰をやつて居る蔣介石は如何にしてあれだけの力を發揮して居るか、と申しますと、第一に日本は勝れた武力を持つて居るのでありますが、支那は土地が非常に廣い。ドイツがポーランドを數週間でやつつけたのは狹いからです。支那は廣いものですから幾ら日本の兵隊さんが行つて暴れ廻つても手が屆かない。此の支那の土地が廣大であり交通の不便であると云ふことは蔣介石の武力の薄弱を補つて居るのであります。それから國民生活が未だ原始的であります。蚯蚓のやうなものだから切つても仲々支那は死なない。未だビク〳〵動いて居る。大體自給自足の生活をやつて居ります。それに比べると日本は既に高度の經濟狀態に入つて居りますから仲々敏感であります。一寸米が無い電氣が暗いと相當小言を云ふ。蔣介石は西洋の宣傳もありますけれども日本では愈々物がなくなつた。其の中に參るだらうと信じて居ります。而も外國殊に英米が支那を助ける、自分等の原始的生活と英米の援助とそれに日本の經濟力が弱い、支那の參る前に日本が參る、と信じてゐます。支那人はけしからぬことを云つて居ります。米内内閣と云ふものは米の無い内閣だと云つて居ります。（笑聲）

然し武力や經濟力だけでは戰さは出來ません。精神が大事です。日本でも精神總動

員をやつて居ります。此の頃又改組をやるらしいですが支那の精神總動員は素晴らしい、抗日意識に塗潰されて居るのであります。凄いほど精神總動員が出來て居るのであります。でありますから蔣介石はどう云ふ風にして日本に抵抗して居るかと申しますと、廣大なる土地に依つて日本の武力を緩和して、抗日意識により國民精神總動員を行ひ、日本經濟の覆滅を待つて居る。斯う云ふことが蔣介石の戰爭指導の根本方針だらうと思ひます。電報で問ひ合せた譯ではありませんが、（笑聲）私は大體見當は外れまいと思ひます。

それで我々はそれに對應して、此の戰爭指導の方針を定めて行かねばなりません。作戰のことは畏れ多くも大元帥陛下御自身おやりになつて居ることでありますから、我々國民として批判容喙の限りではありません。何處何處に行つたらよろしい、何處何處を取つたらよろしい、こんなことを國民の輿論に訴へるのは統帥權に對する所の干犯になる。國民は自分等の許された範圍内に於て考へて行けばよいのです。

第一に考へなければならないのは昨年九月十八日に物價の釘付けをやりましたが、昨年暮頃から品物が無くなつてきた。今迄は非常時と口では云つてゐますが、まだ非常時の氣持は無かつた。物が無くなつてやつと非常時の氣分が少し出てくる、出てくるともうそれが嫌になつてしまふ。さうして何とかして迅速に事變を處理したい風が見えて來ます。私は××を長引いたがよろしいと考へるのでは絶對にありません。戰爭程悲慘なものはありません。事變の迅速なる處理と云ふことは當り前のことでありますが、その手段は盡さなければならない。自分の生活が少し苦しくなつたから早く事變を處理したい、かう云ひ出したら戰は負けであります。それが直ぐ蔣介石に響いてそれ愈々參つた、もう今年の秋には日本は參つてしまふと盛んに宣傳して居ります。自分の生活に苦しんで此の苦境を早く免れて事變前の狀況にならうと云ふさもしい考へから早く事變を處理したい、是では逆に事變を長引かせる結果となります。

先に申しました通り歐洲戰爭以後我々は驚くべき大革命、革新の進行中にあるので

あります。昭和維新の進行中にあるのであります。昭和維新は外、東亞聯盟を結成することにあることは先に申上げた通りでありますが、それに卽應する所の國內の大きな改革が絕對に必要であることは申す迄もありません。今迄の歷史が皆證明して居ります通り、大きな改革と云ふものは仲々人の考へでありたい斯うありたいと云ふことでは實現困難であります。せつぱつまつて初めて其の變化が出てくるのであります。其の意味から言つて兵隊の私は餘り詳しいことは知りませんが、去年の暮位から今年の春先、電燈とか米に悲鳴をあげてゐるのは甚だ目出度いことであります。國民生活の困難を突破して行く所に初めて東亞聯盟の結成に卽應する所の國內の大革新が決行せられるものであらうと思ひます。神樣の思召なんです。國民は、さつき申しました世界の大勢をよく考へ、日本民族の聰明さを十分發揮して大君の爲に御國の爲に子孫の爲に、私共は斷々乎として昭和維新の實現を期し、目前の困難も喜んで之を迎へ、本當の滅私奉公、新しい社會・經濟を建設して行く所の精神が必要であらうと思ひます。蔣介石が日本は間もなく倒れると思ふに對し、我々は此の通り何年經つても何十年經つても我々は我々の目的を達成する迄は斷じて退るものでないことを示すことが肝要です。言ひ換へて見れば長期戰爭の體制を最も適切果敢に建設して行くことが第一の急務であります。物が少なくなつてきたことは事實です。然し、どの交戰國も日本よりは遙かに逼迫してをるのです。國民が眞に目を醒したならば物に囚つてへたばるやうなことは絕對にあり得ません。

第二には支那大衆の抗日意識、是は何とか處分して行かなければならぬのであります。其の他の見地から支那の抗日意識を考へて見ますと、二つの大きなことがあるのであります。

一つは支那人は日本人以上に先に申しました所の時代の大きな變化を知りません。聰明なる日本人でさへ、人類の歷史の最大關節である、今日の昭和維新の發展して居ることを見逃して居るのである。支那人が漸く三民主義によつて民族意識を奮ひ起

して、民族國家を建設して行かうと云ふそこに夢中になつて居りますから、東亞の大同團結と云ふ世界歴史上の必然性を理解しないのであります。この點に就きましては日本は先づ東亞聯盟の精神を支那民衆に普及徹底する必要があるのであります。但しそのためには日本人自らが心の底から東亞聯盟の精神が明らかにならなければ出來ないのであります。自分が判らないで向ふにだけ判れと云ふことは、是は云へた義理でないと思ふのであります。

もう一つ私が皆さんに心をこめて訴へたいことは、聖戰を口だけでなく實行することであります。聖戰は口では餘り云ふ必要はない。手足ではドシ〳〵聖戰をやることであります。言ひ換へて見れば日本の占領地の民心を把握することであります。占領地は新聞を御覽になつて居ると判ります、まだ〳〵不安定であります。日本軍の占領して居る所の支那民衆が本當に成程是ならと云ふ風でなければいけないのです。

所が遺憾ながら日本人が特に日本の商賣人が、口では聖戰と說きながら商賣は支那大衆を搾取する方式を採つて居るのであります。日本の國家權力をうまく借りて、支那民衆との間に不當なる經濟行爲をやつて居るのであります。確かに蔣介石は精神的に英米蘇の支援を受けて居ります。併し物質的には皆さんの考へるほど大きな支援は受けて居ないのであります。先に申しました通り蔣介石が日本の武力に抵抗して居るのはソビエットの飛行機でもなければ英國の大砲でもありません、アメリカの砲彈でもありません。さう云ふものも相當あるのでありますが、彼は寧ろ廣い土地で民衆の抗日意識を利用して遊擊戰法に最大の望みをかけて居ります。

私は少し矯激な言ひ表し方でありますが、援蔣ルートと云ふものは此の見地から申しまして、モスコーにも或はロンドンにも通じて居るのでない、寧ろ日本殊に此の邊、大阪とか神戸とかに通じて居る。日本の商賣人が支那に行つて本當の正しい商賣をする、日本人は成程有難い、と云ふ狀態でありましたならば、蔣介石が幾ら抗日の宣傳をやつても大衆は絶對に受付けないのであります。所が遺憾ながら蔣介石の云つて居

る通りを日本人がやつて居るのですから、是はひどい、我々の委員長蔣介石の云ふ通りだと云ふ譯で日に日に抗日意識を增加して居るのであります。此のことは國民的に深く反省し、深き反省の下に本當に皇道の精神に基く所の支那人に對する接觸、特に經濟行爲を正しくして貰ふことでなければならぬと私は信ずるのであります。

要するに自分が困つて戰を早く片付けたいと思ふ間は斷じて片付きません。我々が事變を解決しようと思つたならば先づ戰爭は何年たつても大丈夫だといふ長期戰爭の體制を整へることであります。此のことは昭和維新の國內改革の原動力になるのです。何年でもよいと云ふ體制をお互が苦勞して建設する。凡ゆる困難、凡ゆる失敗の上に國民が本當に協力してお互に相勵まし、許し合つて新しいものを作つて行かなければならない。何年經つても戰爭をやつて行けるだけの度胸を整へて、而も我々が聖戰の目標を明らかにし、本當に皇道精神に基いて日支提携するのだと云ふ具體的のことを明らかにする。國民がそこ迄行けば此の事變は案外簡單に片付く、蔣介石が幾らじたばたしても四億の大衆が蔣介石を捨てゝ我々について來るのであります。

尙外交上の問題でありますが、盛に外交問題を論じます。此の長期戰爭には外交が重大な意義を持つて居ることは勿論でありますが、外交と云ふものはデリケートなものであります。國民が餘りギャア〳〵騷ぐことは私は同意しないのであります。殊に外交は結局補助の手段であります。我々が前に申しました事變處理の根本を等閑にして英米を動かし、又はソビエット、ドイツと提携することを主として此の事變を解決しようと思つたならば、我々自らが歐米依存と云はれても何とも返事が出來ないぢやなからうかと思ふのであります。

今次事變の解決處理は日支間の問題であります。更に端的に云へば我々日本人の精神の問題であります。我々が本當に大御心に一如し奉れば必ず解決する。併し私は外交に就きましても日本人が東亞聯盟の氣持を本當に了解したならば、大なる結果を齎すものと思ふのであります。どうも西洋人には日本人が何をやるか判らないらしいの

です。アメリカにおべつかを使つてアメリカの了解の下に事變を解決しよう、そんなしみつたれた考へをもつてはなりません。然しアメリカ人で徒らに誤解を持つ點があつたならば、我々は說いてやるべきものであらう考へます。

今から一年半ばかり前私が滿洲に居りました時に、或る機會にアメリカ人と會ひました。色々話して居ると田中大將の上奏文の話があつたのです。それで私はあれは本物だと申しますと、アメリカ人は吃驚りして、閣下そんなことを云つてよいか、我々アメリカ人は全部本物と思つて居るが、日本人は皆嘘だと云ふ。そんなことを云つてよいかと脅迫的に申しますから、よろしい本物だと答へ、それから私は說明したのです。確かあれは法律的から云へば嘘ものだらうと思ふ、けれども精神的に本物だ。我々が君等から資本主義の經濟を習ひ其のお蔭で此の通り發達して來ると、どうしても支那に帝國主義で行かなくてはならぬ、君等から習つた通りやらなければならぬ、君等から習つた我々の最高の作品が田中大將の上奏文である。今から數年前には日本國民の氣の利いた者は大體田中大將の上奏文のやうにやりたい思つて居つた。所が帝國主義や覇道的な行き方は君等から借りた着物ではどうも我々の體にピッタリ合はない。さうして居る間に我々としては我々の腕ッ節に少し自信を得た。アメリカの軍艦も偉いが、日本の軍艦だつてさう馬鹿にしたものでない。必要あればお相手するだけの度胸が出來た、其の度胸が出來て君等を餘り怖れなくなつた。滿洲事變は君等が恐しくないからあれだけのことをやつた。やつて見て益々自信力がついた。滿洲事變前迄は田中大將の上奏文が我々の理想であつたが、滿洲事變を境として我々は百八十度の轉向をした。そしてそれは何であるかと云ふと我々の皇道の精神に基く所の東亞聯盟であると云つて、東亞聯盟の理想を一くさり話した。

そのアメリカ人が吃驚りして、いやそれは素晴らしいぢやないか、何故あんた方はアメリカに宣傳しない、アメリカに宣傳すれば非常な衝動を與へると思ふ、と云ふので、いや一寸待つて吳れ、日本でも未だ一パーセント位しかさう考へて居ない。九十

九パーセントは未だ君等の弟子だ、どうもそれで困つて居る、今は日本内部で君等から習つた所の覇道主義でやるか、建國の昔に歸つた王道主義でやるかの闘爭だ、必ず我々が勝つ、君等の弟子を蹴り飛ばしてやる、必ず皇道の精神が勝つのだ、斯う云つた所が此の男が感服して、成程さう云はれゝば分る。日本は神樣のことをやるのか泥棒のことをやるのか一寸我々には判らない、餘り矛盾が多い、それで判つたと申しました。それで私を駐米大使にしたら非常によいと自惚れたわけです。（笑聲）

最近議會邊りで問題が起つて居るが、私は聖戰の目的と云ふものは急速に國民的に了解されつつあると思ふのであります。固よりアメリカの新秩序否定は彼等の利益のためでありますが、然し日本國民が眞に東亞聯盟の精神を確立し、堂々戰つたならば西洋の理想主義者の中には必ずや共鳴者も出て來ると信じます。さうなれば抗日一色のアメリカに對しても外交を振ふ途が開けるのではありませんか。

かうなつて來て見ると結局問題は日本の國内の問題であります。事變以來、向ふでは蔣介石一人で三年近く頑張つて居るのでありますが、此方では近衛さん以來再三内閣が替るのであります。私は非常に心細く思ふのでありますが、皆さんも恐らく御同感でありませう。これはどうも日本にははつきりした政治の力が無いのぢやないかと思ふのであります。政治は勿論我々の關係すべき限りではありませんが、常識的に考へて見ますれば明治御維新に日本は封建制を清算して新しい近代國家として社會的經濟的には西洋人も驚く所の大飛躍をやつたのであります。支那では封建の清算が出來なかつた。依然封建に低迷して今日の社會的・經濟的に停頓した狀況になつて居るのであります。併し反面に日本は自由主義政治の爛熟期に入つて其の機能が甚しく鈍つて居ります。今の政黨がよいとか惡いとかの問題ではないのであります。國民が自分の利益を主張して、皆んな自分等の利益を主張して居れば總體の利益を代表せられると云ふ政治形態を自由主義政治と考へるのでありますが、さう云ふことでは此の重大な

る非常時を突破して行けない場面に來たに拘らず、遺憾ながら日本には新しい政治的結成がないのであります。所が社會的・經濟的に停頓した所の支那は數十年の國民黨の訓練により、その訓練は抗日をうまい材料に使ひまして、政治的には全體主義、全體主義と云ふ言葉も色々論難されるのでありますが、私の言ふ全體主義は、個人主義・利益主義・自由主義に對して國民が一つの方針の下に政治をやつて行く方式と考へるのであります。つまり國家的に國策が確定して居る所の其の下に行はれる政治であります。兎に角日本が政治的不安である間に蔣介石君の方は一足先に御免を蒙つて全體主義的政治態勢を整へたのであります。

自由主義時代から全體主義の時代に移つて來るのが世界の大勢と考へられます。ドイツは何故ヒットラーが天下を取つてナチの時代になつたか、私が考へて見ますと、ベルサイユ條約の壓制に依つて、ドイツ民族の誇りは蹂躙せられ、生活は徹底的に壓迫せられて行つた。其の氣持と云ふものは日本人の皆さんには御判りになりますまい。ヒットラーの此のベルサイユ條約の打破打倒と云ふことが直ちに全國民的に信賴を博し得る所の大きな力であつたのであります。それを實行するための彼等の所謂國民社會主義の建設であります。お隣の支那はどうであります。日本人に蔣介石は先づ最高の感謝を捧げねばならんのであります。抗日と云ふスローガンによつて四億の民心を握つて居るのであります。其の目的を達する爲に事變前に起つた所の新生活運動等と云ふものは素晴らしい國民的感激を得まして、ドシ〳〵目覺しい革新を繼續して居つたのであります。ベルサイユ條約の壓迫、日本の壓迫と云ふことは國民が直ぐ直接その身に判るのであります。受身であつて直接判つて非常によいスローガンであつたのであります。

然るに日本は或る意味に於て元來全體主義の國家と思ふのであります。外のことは少し疑問があつても大君の爲とあれば全國民が火の玉となつて自分の命を捧げるのであります。今議會の壇上に於てさへ戰爭の目的は論難せられるやうな狀況にあるに拘

らず、國民は本當に一つ心となつて戰をやつて居ります。そこに日本國體の驚くべき優秀性があるのであります。然し此重大時局に於て眞に徹底した大解決を圖るには、國民の新しき組織が必要であります。これが爲めには國民にピンと來る國策の確立が絶對的條件であります。

所が我國策の中核である東亞新秩序の建設卽ち東亞聯盟の結成と云ふものは受身でなく主動的なものであります。爲に國民を直接力强く動かす力がまだ表はれないのであります。然し先に申しました通り幸に生活の不安がだん〳〵迫つて來る。列國の壓迫が日に加はつて來る、又近く事變が解決しましても本當の東亞聯盟の線で行かうとしましたならば、ヨーロッパを總て敵とする覺悟で行かなければならぬのであります。東亞聯盟に贊成する國は西洋には一つもありません。便宜上我々と提携する國はありますけれども、心から贊成する國は一つもありません。況んや天皇を世界の天皇に仰ぎ奉ると云ふ心理狀態は、前に申しました通り最後の大決戰に於ての勝利に依つてのみ實現せられる問題であります。此の見地から云つて假に事變が解決しましても、全人類に眞の平和を與ふべき八紘一宇の大理想を實現して行く爲には軍事費は斷じて低下はしないのであります。國民の生活は更に更に緊張を要求せられるのであります。どんな困難であつても斷じて退轉しないのが我々大和民族の本質であると思ひます。今迄非常時の氣分がないと私はけなしましたけれども、それは身にこたへないからであります。今や漸く身にこたへ始めてまゐりました。本當にひどくなつて來れば其の時に火にも水にも入ると云ふ氣持になり、大和魂が發揮せられるのであります。

紀元二千六百年から急速に加はつて來ると豫想せられる所の國難の深刻化に依つて、ドイツのベルサイユ條約の壓迫、支那の抗日意識、それに劣らざる所の直接的刺戟を受けて眞に昭和維新の本質を正確に把握し得ました時に、私は政界の不安も一掃せられ、國民の新しい政治結成が實現して、ファッショにあらず、ナチにあらず、本當に日本らしい、　天皇を中心と仰ぐ所の、世界無比の鞏固なる政治力が結成せられ

るものであらうと信ずるのであります。

繰返して最後にもう一遍申上げます。事變處理の要訣は、國内諸改革を斷行して長期戰爭を整へ、聖戰の意義を徹底して其の聖戰の目的達成迄は斷じて戈を收めないと云ふ所の國民的決心を確立することにあるのであります。此の大決心が定まり、それを身を以て實行して行くならば、案外事變は急速に解決し、日支提携して昭和維新の大道、次の世界最後の決勝戰に對する大きな建設的運動に邁進して行けるやうになると考へて居るのであります。今次事變の目標は再三くどく申しました通り、滿洲建國に依つて發見せられた所の東亞聯盟の結成であります。國民に此の精神が了解されたならば、國内に於ては最も急速に政治的安定を得、支那をして抗日を斷念せしめる所の原動力となるものであります。又同時に我々の外交の方面に於ても相當の力を發揮し得るものであらうと考へます。

滿洲建國八周年に當り、滿洲建國の所産である所の東亞聯盟に就きまして私の所懷を述べる機會を得ましたのを非常に幸福とする所であります。私は主催者たる東亞聯盟協會の發展を祈つて此の講演を終らうと思ひます。（拍手）

「此の講演は滿洲帝國記念日を選び昭和十五年三月一日午後六時より京都市堀川高等女學校に於て聽衆約千五百名參集裡に關西東亞聯盟協會主催にて開催された時の講演であります。」

派遣軍將兵に告ぐ

—支那派遣軍總司令部—

一、事變發生の根本原因

1、東洋に對する自覺の缺如

世界に先行せる道義文化の傳統を共有し、二千年來の友好關係を繼續して來た日支兩民族が近世に於て兎角非友誼的對立抗爭狀態を現出した根本原因は主として共に東洋人たるの自覺を忘却し個人主義的歐米物質文化に眩惑した事に歸するものである。即ち近世に於ける支那の爲政者が事毎に歐米諸國に依存し、其の力を利用し我が國の發展を阻止せんとして兄弟墻にせめぐの端をなし自ら其の殖民地たる地位に沈淪するに至つた事と、又一方日清戰爭に勝つた我が國民が戰勝國の地位に於て支那に臨み支那人を輕侮し、歐米人に對しては先進民族として之に阿諛し其の前には屈すべからざる膝をも屈するものあり、肇國の大理想を忘れ侮支拜歐の弊に陷つた事が期せずして

今日の事態に立至つた所以である。從つて兩國民が共に東洋への自覺に於て日支關係の根本的是正を圖る事が今次事變の目的である。

蓋し科學的文化の上では遺憾ながら後進國であつた我が國が近代國家への躍進過程として以上の經過を迫つた事は眞に已むを得ざるものであつたとは謂へ反面亦誠に慨しい事であつた。

爾來我が國力の飛躍は著しいものがある、明治維新當時に於ては唯只管自國の擁護を全うするだけの實力しか持たなかつたものが日露戰爭に於ては獨力能く露國の極東侵略を挫き、滿洲事變に於ては正を履んで恐れず敢然として國際聯盟を脱退し、更に今次事變に於ては東亞再建の理想の下に新秩序建設の大旆を掲げて蹶起するに至つた所以は、偏に御稜威の下先輩忠烈の貽績による國力の充實に伴ふ國民的自覺に基くものである、即ち我等は今や正に東洋民族の先覺として東洋への自覺、東亞の再建と謂ふ歴史的大轉機に直面して居るのである。

2、歐米諸國の侵略的策動

英國が東洋侵略を開始したのは今を距る約二百年前の印度經略に端を發して居る。人口三億五千萬の印度を其の殖民地として尚飽き足らず、更に支那に歩を進め百年前の阿片戰爭に依つて香港を取り上海、天津の租界を獲得し、逐次揚子江を制し來つたのであるが、我が國の蹶起と支那民族の覺醒によつて其の露骨なる侵略方式を變更し、支那を援けて其の統一に或程度の助力を與へ之が代償として財政、金融上の實權を掌握し政治、經濟上殆ど獨占的地位を占め、我が國の進出發展に對しては對立の勢を示し抗日政策を採らしめた事が今次の事變に至つたのである。

阿片戰爭の本質は印度人の作つた阿片を安く買上げて之を支那人に高く賣りつけ、其の利益は英本國商人が獨占し其の結果として支那人を癈人化し來つたものである。新しい支那の自覺した青年によつて起された辛亥革命の進展に伴ひ、列强搾取の殖民

地的地位から脱却せんとした排外運動の第一目標が英國に向けられたのは理の當然であつたが、爾來彼は其の高壓的政策を巧みに僞裝轉換して支那の民族運動を援助し其の鋒先を排日に轉向せしめ日本の進出を阻止して今次の事變に至つたのである。

一方「ソ」聯は帝政露西亞の崩壞と滿洲事變の結果とにより支那特に滿洲に扶殖せる既權益を喪失した爲、外蒙及新彊省方面より支那の侵略と東洋の赤化とを企圖し、其の第一着手として「ガロン」「ボローチン」を派遣し辛亥革命の帷幄に參畫させて巧みに共產黨の勢力擴張を圖り、支那の民族運動に便乘して極東に於ける强國たる日本の大陸進出を妨害せんと試みたのである。

英國が主として浙江財閥を基礎とする國民黨内に勢力を占めて其の既得權益を擁護せんとするのに對抗し、「ソ」聯は共產黨を操縱し主として農民層に其の新興勢力を扶殖せんとして居る事は明瞭な事實である。從つて國共兩黨は背後の力を異にし其の本質を異にして居るから對立抗爭するのは當然の樣であるが抗日といふ共通の目標の爲に犬猿同行、國共合作を以て今次の事變に臨んだのである。

最近重慶内部や山西、河北兩省等に於て國共の衝突を傳へられて居るのは歐洲事態の反映とも見られるのであつて英「ソ」兩國の關係が對立狀態にある現狀より見て當然の傾向である。

蘆溝橋事件の直後我が國は終始不擴大方針を堅持して來たのであつたが歐米「ソ」聯の示嗾煽動を受けた抗日政權は自己の犧牲に盲目となり、我が國との間に時局を收拾せんとする反省の餘祐なく遂に今日の如き未曾有の大戰狀態に進展したのである。

英國が最近日本に妥協的態度を示して來た事は、在支既得權益の過半が上海を中心として我が占據地域内にある爲利害を打算した結果と歐洲の情勢切迫による當然の一動向である。反之共產黨の根據は我が占據地域と對蹠の西北支那にあり、且又日支抗爭による兩國の疲弊は赤化促進の好條件であるから徹底抗日を呼號し、重慶政權を脅迫して抗戰繼續の盲動をなしある所以である。

二、交戰の對象は何か

1、抗日政權の迷妄打破

現在重慶には、英、米、佛、「ソ」聯等の大使が集合して何事かを畫策して居る。英、米、佛は何とかして重慶を助けて日本の腰の挫けるのを待ち、「ソ」聯は日支の抗戰繼續によつて日本の對「ソ」戰力の消耗と支那の疲弊による赤化の促進とを策しつつある事は誰しも判斷し得る所である。卽ち我が交戰の對象は英、米、佛、「ソ」聯の煽動に躍りつゝある抗日政權及其の軍、匪であつて決して支那の良民ではない。從つて此等抗日政權及其の抗戰力の主體たる軍、匪は本事變の目的に鑑み徹底的に膺懲し之が翻意反省を見る迄は五年でも十年でも戰爭は繼續しなければならないが、刀折れ矢盡きて我に降り或は其の誤りを覺つて歸順して來たものは之を寬容すべく、又無辜の良民は心から之を綏撫し、弱きを扶け强暴を挫くべき我が傳統の武士道を此の聖戰に於て遺憾なく發揮する事が派遣軍將兵に課せられた大使命である。

2、歐米諸國の對日敵性の本質

英、米、佛等の諸國が重慶政權を援助して居る根本目的は前述の外日本の援助による支那の獨立解放を恐れて居るからである。卽ち彼等は支那乃至東洋を永久に殖民地の狀態に置き、本國人の利益を基礎とし搾取の對象として之を維持する事を念願するものであり、又「ソ」聯の企圖する所は抗戰繼續による日支兩國國力の消耗であつて共に道義に反し打算に立脚するものである。尙彼等の我を危惧する理由として極東よりの閉出し放逐を受けると謂ふ眩影恐怖感を擧げる事が出來る。是は東亞再建と東亞閉鎖との錯覺である。支那の獨立完成と日支の善隣結合とは何等第三國の排除を意味するものではない。彼等の正當善意の協力は寧ろ望む所であり、是れ萬邦協和の本領

なのである。

聖戰の眞義が御詔勅に炳かなる如く東洋の平和であり、道義の顯現であり、抗日支那の反省を促し、其の建設に協力するものであればこそ我等は堂々天地に愧ぢず千萬人と雖も我往かんとの信念を以て邁進しつゝあるのである。打算に立脚した列國の向背は一時の現象であつて吾人が正道を履んで終始渝る事無ければ天下に敵なく道義は必ず其の光を放つであらう。

三、大御心を拜察せよ

1、事變發生當時の御勅語と本庄將軍滿洲より歸國の際の御下問

第七十二帝國議會開院式に賜はつた御勅語に於て「帝國ト中華民國トノ提携協力ニ依リ、東亞ノ安定ヲ確保シ、以テ共榮ノ實ヲ擧クルハ、是レ朕カ夙夜軫念措カサル所ナリ。中華民國深ク帝國ノ眞意ヲ解セス、濫リニ事ヲ構ヘ、遂ニ今次ノ事變ヲ見ルニ至ル。朕之ヲ憾ミトス。今ヤ朕ノ軍人ハ、百難ヲ排シテ、其ノ忠勇ヲ致シツツアリ。是レ一ニ中華民國ノ反省ヲ促シ、速ニ東亞ノ平和ヲ確立セントスルニ外ナラス」と明示し給へるを拜察し奉れば聖戰の眞意嚴として炳かである。

滿洲事變一段落を劃して內地に歸還した本庄將軍が　天皇陛下に拜謁を賜はつた際第一の御下問は「三千萬の民衆は滿洲國の成立を喜んで居るか」との意味の御言葉であり、次に「北滿の水害對策は出來て居るか、第一線の將兵は元氣か」との意味の御言葉であつたと洩れ承つて居る。

優渥にして御仁德無邊なる此の御勅語と此の御言葉とを拜しつゝ今尙我が國民の中に非道義的權益的收穫を聖戰の結果として期待して居るものがある事は誠に恐懼に堪へない次第である。

2、八紘一宇の眞義と東洋道義の再建

「上ハ則チ乾靈ノ國ヲ授ケタマヒシ德ニ答ヘ、下ハ則チ皇孫ノ正ヲ養ヒタマヒシ心ヲ弘メム。然シテ後ニ六合ヲ兼ネテ以テ都ヲ開キ、八紘ヲ掩ヒテ宇ト爲ムコト、亦可ナラスヤ」とは神武天皇御卽位の大詔であり、道義を根本となし正義に則り正道を履み四海同胞、萬邦協和の實を擧げる事は我が建國の大精神である。東亞の再建とは此の大詔を奉體し、此の建國精神を東亞に於て實踐するに外ならず、東洋への自覺に於て正しきを養ふ事卽ち東洋道義の再建を根本とするものである。

廣く貴賤、貧富、强弱を問はず慈しみ給ふ　天皇陛下の大御心は太陽の御光りの如くであらせられるから內外に光被し久遠に偏照して窮りなく、其の光り正しきが故に强く正しきが故に久しきを得る所以である。

歐米諸國の支那、印度、阿弗利加等に對して採りつゝある資本主義的侵略や、「ソ」聯の企圖する階級鬪爭による世界革命は他國又は他民族を犧牲として自國民のみの繁榮を圖るものであつて、天地に愧ぢざる大道ではない。從つて能く久しきに亘る事が出來ないであらう。現下世界を擧げて動亂の渦中に投ぜられつゝあるのは此の如き非道義的性格を有する世界政策の齎した當然の混亂である。我等は八紘一宇の眞義に徹し以上の如き混亂から東洋を救ふ爲自ら先づ道義を實踐し其の結果としての日滿支三國の結合により東洋永久平和の基礎を確立し以て大御心に對へ奉らねばならぬ。

四、事變は如何に解決すべきか

1、事變解決の根本觀念

八紘一宇の理想は萬邦協和の建設であり、東洋平和は萬邦協和への第一歩である。東洋を救つた後には世界を救はなければならない。

而して東亞再建卽ち東亞新秩序建設の爲には先づ其の基礎である日滿支三國の關係を道義的基礎の上に物心兩面に亘り調整結合せねばならぬ。是が今次事變の直接目的であり、日露戰爭、滿洲事變、及今次事變は之が歷史的努力の過程である。卽ち今次事變の本質は消極的には、日滿支三國の安定確立に關する努力であり、積極的には東亞再建への發足である。

日滿支三國關係の調整結合に關しては旣に國策として善隣友好、共同防共、經濟提携の三原則が提唱せられてある。卽ち三國は道義を以て一致の根源となし、國防及經濟の協力を以て重しとなすものであつて相互に國家民族の本領特質を尊重して相提携し互助親睦の好誼を厚くし、隣邦相戒めて唯物赤化の侵襲を防ぎ、平等互惠の經濟を以て長短相補ひ有無相通ずるの實を擧げ、以て東洋本來の道義文化を保全發展せしむべきであり、此の關係は東亞再建の基礎であり、模範であらねばならぬ。

2、日本は支那の統一强化を望むか、細分弱化を望むか

支那が眠れる獅子として尙獅子の威力を有して居た時には列國の東洋浸略を遠慮させて居たのであるが、日淸戰爭の結果眠れる獅子の弱體を世界に曝露した爲に歐米諸國の侵略を見た事は歷史の明示する所である。

支那の獨立を脅威せられる事は東洋の平和擾亂であり、日本への脅威である。從來動もすれば支那を細分弱化して之を操縱せんとする樣な考へを持つ者が絕無ではなかつたが、此の考へは支那を侵略せんとする歐米諸國の模倣であつて斷じて聖戰の目的ではない。

日本が支那の內部に火の如く起りつゝある支那統一の民族的要求實現に如何なる協力をも惜まざる大決心を固めた時に初めて日支善隣の結合は得られるものである。萬一日本人にして支那人を瞞して不當の所得を望み、或は外國に倣つて支那を日本の殖

民地の如く考へる者があつたなら道義日本の本質に反するものであり、到底天に愧ぢざる信念を持つ事は出來ない。

聖戰の眞義は道義による新秩序の建設にある事は炳乎たる大方針であるから總ての施策亦言行一致の誠意を以て臨まねばならない。

歐米諸國の唯物的非道義政策による舊秩序（資本主義的支配又は階級鬪爭的革命）の清算是正を目的として起つた聖戰の眞義を、何等の未練と掛値なしに現實に於て示す事を我等の念願とし理想としなければ大御心に副ひ奉る所以ではない。

3、滿洲建國の根本精神を想起せよ

日清、日露戰役、滿洲事變による幾萬の尊い犧牲を以て生まれた滿洲帝國は民族協和の新原理による道義國家である。先般日本より進んで治外法權や附屬地行政權を還付して、滿洲國の健全なる發展强化に善隣としての道を盡したのは內外齊しく知る所であらう。爾後の滿洲は隆々たる發展を示し世界動亂の渦中に於ても三千萬の民衆のみは戰禍を受ける事なく其の居に安んじ其の業に樂んで居る。

滿洲國が以前の樣な張軍閥の搾取下にあつたならば恐らくは今頃は「ソ」聯の一屬領となつて三千萬の良民は塗炭の苦しみを嘗め、或は第二の日露戰爭が滿洲の野に展開されて居たかも知れない。

4、東亞新秩序と東亞聯盟結成

東洋諸國が桃源の甘夢から醒めた時には歐米諸國の爪牙が旣に其の心臟部に喰込んで居たのである。

支那が百年前に覺醒して居たならば支那の獨力で歐米諸國の侵略を防止し、阿片戰爭も日露戰爭も或は今次の事變も免れ得たであらう。

元來日支兩民族は歷史的に二千年の交誼を有しつゝも西洋諸國との接觸以前に於て

は國を擧げて干戈を交へた事例がない。日滿支三國が個々に分裂抗爭すればこそ歐米に侵略搾取の機會を與へるが、三國が眞に結合すれば恐らく世界の何れの國と雖も一指をも染める事が出來ないであらう。卽ち東洋永久平和の基礎は日滿支三國の道義的結合の上に東亞聯盟を結成し、善隣友好の關係を維持し、東亞侵略の暴力に對しては共同防衛に任じ、相倚り相扶け互惠の經濟を以て有無相通じ、三國國力の充實發展を圖る事によつてのみ實現せられ、延いては東洋に於ける他の諸民族の自主正常の發展をも助成し、萬邦其の福祉を俱にするの世界平和に貢獻し得るのである。

東亞新秩序卽ち東亞再建は以上の如き日滿支三國の善隣結合を中核とし、之を全東亞に發展せしめんとするものであつて、其の庶幾する所は東亞の各國家民族が夫々安住の處を得、近隣親睦、互助協力し各々其の天分を遂げて興隆し以て東洋の道義文化を再建發展せしめんとするに在り、其の要點は道義的基礎の上に各國家民族の自主獨立と國防及經濟等の相互協力關係とを律する事である。

東亞新秩序に於ける國家相互間の關係は究極に於て聯盟結成への發展を豫期するものである。東亞聯盟の眞義は右の樣に道義的基礎の上に東亞の安定と發展とを確保し、世界平和の再建に貢獻せんとするものであつて、先づ日滿支三國を以て之が基礎となすも三國以外の諸國が之に加入する事は固より當然の發展として期待する所であり、又歐米諸國にして之に偕行協力せんとするに於ては勿論喜んで其の進出を迎へるものである。

五、派遣軍將兵は如何に行動すべきか

1、眞個の日本人たれ

日本內地に於て今尙聖戰の眞義に徹せず、西洋模倣の侵略思想に依り權益的代償を求める觀念を淸算し切れない者のある事は遺憾である。　陛下の萬歲を遺言とし、東

洋平和の人柱となつた十萬の骨の上に築かれるものは皇道の宣布であり、東洋道義の確立であり、其の結果としての東洋の平和である。求めざる心によつてのみ永遠の平和が求められるのである。力を以て求めたものは力を以て奪回せられ、道によつて得たものは道に惇らざる限り喪はれない。

前に謹述した御勅語の中に「中華民國深ク帝國ノ眞意ヲ解セス」と宣はせられて居るのを拜誦して恐懼に堪へない事は、事變前に於て我々日本人が眞の日本人として大御心を奉體し之を支那人に傳へ、支那人をして大御心を理解せしめるの努力に缺けて居た點である。

事變解決の根本條件は一億の日本人が速かに歐米的思想より覺醒し、眞の日本人に立還りて日本の眞の姿を確認し、國を擧げて肇國の大理想實現に身命を捧げる決意を固める事を第一とすべきである。東洋を東洋へ還す前に先づ日本人は日本人に還らなければならぬ。

一

2、皇軍たるの本質に徹し身を以て道義を實踐せよ

皇軍の特質は道義の軍として皇道を宣布する事を其の使命とするにある。　陛下の軍人、　陛下の軍隊は行住坐臥唯々大御心を奉體し身を以て實踐しなければならぬ。聖戰遂行の第一線に立てる派遣軍將兵が其の行狀に於て天地に愧づる樣な事があつては大御心を冒瀆し奉り、支那人に反つて永久の恨みを殘す事となる。人心を逸して聖戰の意義はない。掠奪暴行したり、支那人から理由なき餞別饗宴を受けたり、洋車に乘つて金を拂はなかつたり、或は討伐に藉口して敵性なき民家を焚き、又は良民を殺傷し、財物を掠める樣な事があつては如何に宣傳宣撫するとも支那人の信賴を受けるどころか其の恨を買ふのみである。從つて假令拔群の武功を樹てても聖戰たるの戰果を全うする事は出來ない。

十萬の英靈は地下で我等の行狀を見守つて居る、司令部や本部は率先して自肅自戒

常に第一線將兵の上に想ひを致し、第一線將兵は戰死した英靈に想ひを致して其の身を正しく律する事が生殘つた者の當然の道である。

長期戰勝の素因は志氣の振張に在る、聖戰の目的を貫徹するまでは五年でも十年でも戰はなければならない。征戰久しきに彌るも軍紀の弛緩を來さない爲には特に上級者の自肅自戒率先垂範を先決としなければならぬ。

3、敬、信、愛を以て兩民族を永久に結合せよ

「弱きが故に助ける」といふ氣持（愛）は日本人の傳統的性格である。聖戰の出發點は歐米諸國の策動に利用せられて盲動する抗日政權を膺懲し、虐げられたる良民を救はんとする精神に立脚して居るものであるが、戰後に期待する日支兩民族永久結合の爲には更に一歩進んで支那民族の本質を正視し、其の長所を見出し之を尊重し信を其の腹中に置くの雅量を必要とするものである。

我を騙すかも知れないと用心してかゝれば對手も亦何時迄も解けない氣持を抱く事は、個人の交際に於ても國家の關係に於ても同樣である。四千年の古き歴史と歐米に先覺せる文化を持ち、我が國と二千年の友好關係にあつた支那であり、兵匪の暴掠や天災地變に脅かされても誰人にも訴へる能はず、又最近に於ては歐米諸國の資本主義的侵略に搾取せられながらも根强く生存し、孜々營々として大地と共に生きて居る支那人を見て、其の靱强と其の忍苦と其の素朴とに美點を認め、一度や二度の背負投げも喜んで受けるだけの肚で進めば必ずや兩民族の精神的結合に到達し得るであらう。

日本を信賴せよ、日本人と提携せよと如何に叫んでも支那人が心から日本を信賴し日本人を信用するに至らない限り一方的である。

我等は支那人に呼びかける前に先づ己を眞の日本人として正しくする事が先決條件である。

4、英靈を冒瀆すべき不良邦人を戒飭遷善せしめよ

軍に跟隨し同胞の先驅として大陸に進出した邦人中には或は宣撫に、或は看護に獻身犧牲的活動をなし職に殉じたもの、又現に活動をなしつつあるものも尠しとはしないが、日本人の面汚しも亦尠からざる現狀である。法に觸れたものの多い事は勿論觸れないものと雖も道德的に指彈せられるものの甚だ多い現狀は遺憾ながら之を認めざるを得ない。

上海、南京、天津、北京等の夜の狀況を一巡すれば如何なる狀態にあるかを判斷する事が出來よう。遊興の影には不正があり勝ちであり、支那人を瞞し脅して不正に利得を貪り、或は敵側を利する事を知りつつも營利の爲敢へて之を爲し、或は外支人の手先となりて我方に不利となる行爲を敢へてする者、就中外人に對し名義貸しをなし不當の利得をなすもの、或は個人の利益のみを圖りて全般的統制指導を拒否するが如き者がある狀態では、何時迄經つても聖戰の成果を收める事が出來ないのみならず、日支兩民族を永久抗爭に導くものである。派遣軍將兵は先づ身を以て自肅の範を示し、不良邦人の反省自覺を促し、十萬の英靈を冒瀆する樣な結果を來さしめない心構へを以て足下を淨める事に努力しなければならぬ。

十萬の英靈は不良邦人が懷を肥やす爲に日支兩民族を再び抗爭に導く樣な結果を見たら地下で何と訴へるだらう。英靈を慰めるの途は單に禮拜供花のみでは足りない。其の骨の上に築かれる日支永久の結合を實現させる事に全力を盡す事が生殘つた將兵一同の義務であり、又英靈に對する最善の供養である。

5、支那人の傳統と習俗を尊重せよ

支那には支那の傳統があり、支那人には支那人特有の習俗がある。之を尊重し之を理解して其の面子を尙ぶ事は絕對不可缺の要件である。日本人は眞の日本人たると共

に支那人が眞の支那人たる事を尊重せねばならぬ。友好には寛容と同情とが必要である。

日本の法則を支那に强ひたり、日本人が支那の內政に干涉したり、日支合作を唱へながらも支那人を傀儡視したり、又は其の習俗を無視しては如何なる創意妙案と雖も實績を擧げ得るものではない。宜しく支那自體の事は支那人に委せ信を其の腹中に置く雅量を以て接しなければならない。

6、正當なる第三國人に對しては寛容であれ

破邪顯正は皇軍の使命である。皇道宣布の爲には國を擧げて起つべきは我が國民的信念であると同時に、無力の弱者を庇護する事も我が武士道の本領である。今や我が占據地域內に關する限り第三國權益の如きは我が大軍駐屯の前には無力無抵抗の存在である。此の裡にあつて遠く故國を離れて生存する第三國人に對しては正當にして利

敵行爲なき限り、支那の良民と同樣寛容を以て之を遇し無用の危惧を去らしむべきである。東亞再建は萬邦協和への段階であるから不當利敵のものは之を排するも正當不偏のものは斥けるべきではない。戰時の要求存在するの故を以て平時も永久に然らんとする彼等の危惧に對しては我が要求の限度を吟味して之を明示し、我が公明なる眞意を諒解せしめる樣に敎へ且つ導くべきである。過去に過てるが故に現在にても咎め、本國非道の故を以て罪なき個人に報復する事は皇軍將兵の爲すべき所ではない。若し夫れ彼等の本國が聖戰の眞意を曲解し東亞の擾亂を圖るものあらば堂々國家の決意に於て破邪顯正一刀兩斷の施策をなすものである。

六、交代歸還將兵に告ぐ

聖戰久しきに亘るに從ひ內地に交代歸還する將兵の言動が日本の國內に與へる影響の如何に强いものがあるかを深く省る必要がある。

征戰三年有ゆる困苦に堪へ彈雨を冒して得た精神的收獲は歸國と共に消滅し、物質萬能の世相に捲込まれる事があつてはならぬ。戰爭に來なかつたものが樂をして金を蓄め、或は高い地位にありついて居る等の矛盾せる現實を捉へて歸還將兵に呼び掛ける國體破壞の左翼運動が潛行して居る事も警戒すべきである。戰友を失ひ、部下を殺し、上官を亡した者の考へなければならない事は地下の英靈が何を望み何を期待して居るかの一事である。皇國日本の姿を益々高く世界に顯現し、東洋平和の御詔勅を奉じ　陛下の萬歲を遺言として骨を曝したのである。若し此の英靈を冒瀆する樣な國內の醜狀、國民の無自覺あらば敢然として起ち皇運を扶翼し奉り聖戰の目的貫徹に向つて國內を導くの覺悟を必要とするのは言を俟たない所である。生命を彈雨の危險に曝し、幾度か死線を越えて得た精神的收獲は如何なる物質を以ても購ひ得ない賜である。歸還後物質萬能の世相に敗退する事なく皇國民の精神的中核となつて鄕黨を指導する事は生き殘つたものの英靈に對する義務である。

歐洲に於ては昨秋以來第二の大戰狀態を呈し、東洋に對する列國の干涉は其の爲に稍緩和の狀態にあるが、利害打算を信條とする歐洲各國が打算の取れない戰爭を永續するものと期待してはならない。何時平和（固より武裝平和であるが）狀態になるかも豫測出來ない。此の秋に於て彼等が歐洲に得られなかつたものを東洋に求め、又第三國が連袂して對日干涉を試る事を當然豫期しなければならぬ。

第二、第三の國難が內外兩方面より神國日本への試煉として加へられる事を豫期し、挺身難に赴くの準備を整へ以て　大元帥陛下の信倚に對へ奉る事が十萬の英靈に對する何よりの供養である。

東亞聯盟協會趣意書

東亞聯盟協會ハ一個ノ文化團體トシテ東亞聯盟主義ニ基ク文化運動ノ發展ヲ任務トスル。

聯盟運動ノ究極ノ目標ハ萬邦協和ニヨル人類絶對平和ノ確立デアルガ、ソノ第一歩トシテ東亞諸民族ノ協和ニヨル新秩序建設ガ當面ノ任務デアル。殊ニ昭和十三年十二月二十二日ノ近衞聲明ノ趣旨ヲ速カニ日本全國民ニ普及理解消化セシムルト共ニ、中華民國國民ヲシテソノ眞意ヲ諒解セシメ東亞諸民族ノ提携强化ヲ促進スル基礎ヲ確立シナケレバナラヌ。

近衞聲明ハ畏レ多クモ御前會議ノ議ヲ經テ中外ニ表明セラレタル事變處理ニ關スル日本不動ノ方針デアッテ、歐米列强ノ極東侵略主義ヲ排擊シ、東亞ニ新秩序ヲ建設セントスル鞏固ナル意志ヲ表明スルモノデアル。

從ッテ聯盟運動ハ官民一途、聊カノ摩擦モナク遂行セラレネバナラナイ一大國民運動デアル。

聯盟協會ガ提唱スル內外革新ノ具體的方策ハ逐次ソノ運動進展ニ從ッテ天下ニ發表スル。

敢テ諸賢ノ御賛同ト御入會トヲ請ヒ願フ次第デアル。

東亞聯盟協會綱領

一、本協會ハ萬邦協和ニヨル世界絶對平和ノ確立ヲ究極ノ理想トス

一、本協會ハ王道ニ基キ國防ノ共同、經濟ノ一體化、政治ノ獨立ヲ條件トスル東亞聯盟ノ結成ヲ唱導ス
一、本協會ハ國防國家完成ノ爲メ內外一途ノ革新政策ノ實現ヲ期ス

東亞聯盟協會規約

第一條　本會ハ東亞聯盟協會ト稱シ、事務所ヲ東京ニ置ク
第二條　本協會ハ綱領ノ實現ヲ圖ルヲ以テ目的トス
第三條　本協會ノ綱領ニ贊成シ、且ツ所定ノ入會手續ヲ經タルモノヲ普通會員トス
本協會ノ精神ヲ體得シ、本運動ノ中核タルモノヲ以テ參與會員トナス、其ノ銓衡方法ハ別ニ之ヲ定ム
第四條　本協會ハ本協會ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ
一、月刊誌「東亞聯盟」、パンフレツト、其ノ他出版物ノ刊行
二、講習會、講演會、研究會、座談會等ノ開催
三、東亞聯盟問題其ノ他必要事項ニ關スル研究調査
四、本協會ト目的ヲ同ジウスル內外諸團體トノ連絡提携
五、其ノ他必要ト認ムル事項
第五條　本協會會務ハ參與會員ノ合議ニ依リテ行フ
第六條　本協會ニ顧問、客員ヲ置クコトヲ得（以上）

入會申込書

私儀貴協會の趣旨に贊同入會致し候

昭和　年　月　日

職業
住所
氏名　㊞
生年月日

東亞聯盟協會御中

昭和十五年八月五日印刷
昭和十五年八月十日發行
昭和十五年十月十五日第二版發行
昭和十五年十一月五日第三版發行

【定價五拾錢】

編輯兼發行人　東亞聯盟協會
代表者　木村武雄

印刷人　大橋松雄

印刷所　共同印刷株式會社
東京市小石川區久堅町一〇八

版權所有

發行所　東亞聯盟協會
東京市赤坂區溜池五番地
電話赤坂(48)五〇七四番
振替東京一六五三四三番

終